

第2回 高浜町総合計画審議会

日程 令和2年1月29日(水)

午後1時30分より

会場 高浜公民館会議室3、4

次 第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 高浜町の概況について

(2) 町民ワーキング委員会等の経過報告について

(3) 総合計画の全体構成について

(4) 総合計画基本構想 町民ワーキング委員会(骨子案)について

4. その他

5. 閉会

資料

資料1 高浜町の概況

資料2 町民ワーキング委員会等の経過報告について

資料3 総合計画の全体構成

資料4 総合計画基本構想 町民ワーキング委員会(骨子案)

資料4-1 基本構想「将来像(まちやひとの姿)」について

総合計画審議会委員

任期：委嘱日 令和元年12月18日～総合計画答申（令和2年11月頃）

	氏名	所属	備考
1	西野 朋宏	高浜町議会議員	町議会議員
2	小幡 憲仁	高浜町議会議員	町議会議員
3	野嶋 慎二	福井大学工学部・工学研究科 教授	学識経験者
4	福田 敏弘	教育委員	
5	田中 康隆	高浜町商工会 会長	
6	大角 一馬	若狭高浜観光協会 会長	
7	板倉 健治	若狭高浜漁業協同組合 代表理事組合長	
8	時下 昭一	J A若狭 高浜支店 支店長	
9	田淵 幹啓	高浜町区長連合会 会長	R2. 1. 29～
10	大森 弘子	高浜まちづくりネットワーク 会長	
11	一瀬 邦生	高浜町社会福祉協議会 会長	
12	山下 孝之	高浜町老人クラブ連合会 会長	
13	角谷 美佐子	高浜町女性ネットワーク 会長	
14	正木 久康	高浜町P T A連合会 会長	
15	長田 隆	日本労働組合総連合会福井県連合会 嶺南地域協議会 議長	
16	永禮 義己	高浜町役場 総合政策課 課長	事務局
17	杉本 泰寛	高浜町役場 総合政策課 課長補佐	事務局
18	野村 芳	高浜町役場 総合政策課 技師	事務局

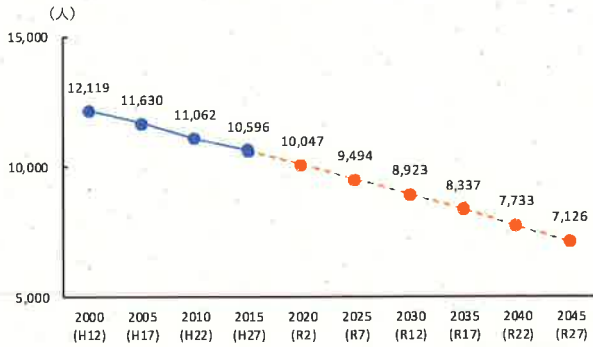
(敬称略)

高浜町の概況

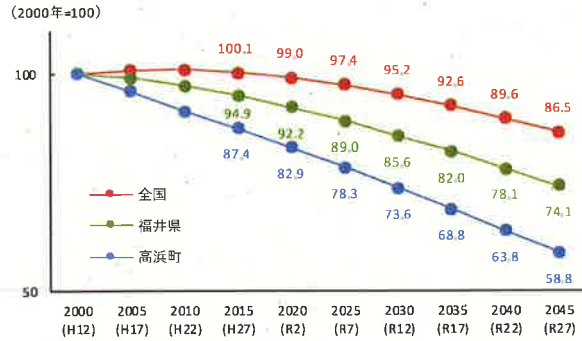
人口

- 2020年～2025年の間に人口は1万人を割る見込み
- 少子高齢化による「自然減」と転出超過による「社会減」がともに進行
- 世帯人数の減少と高齢化により、高齢者のみで暮らす世帯が増加

■ 総人口の推移と将来予測



高浜町の人口は減少を続けており、2020（令和2）年から2025（令和7）年の間には1万人を割ると予測されています。

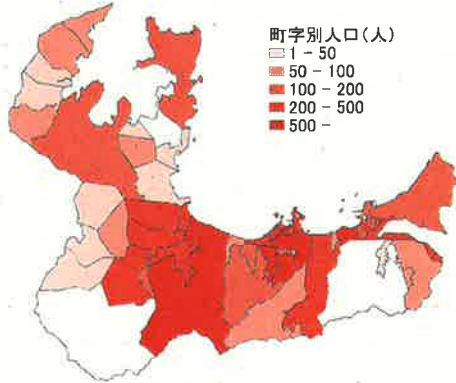


2000（平成12）年の人口を100とした場合の比率を見ると、高浜町の人口は全国や県の平均よりも減少しており、2045（令和27）年には約4割が減少すると予測されています。

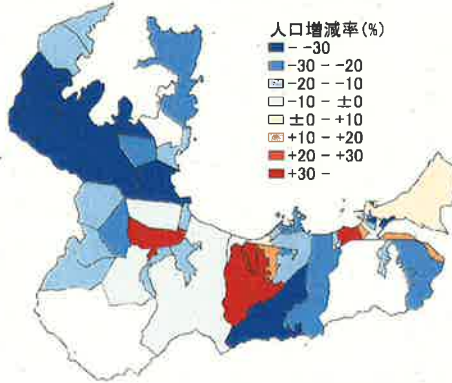
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

■ 地域別の人口の推移と将来予測

【2015年の町字別人口】



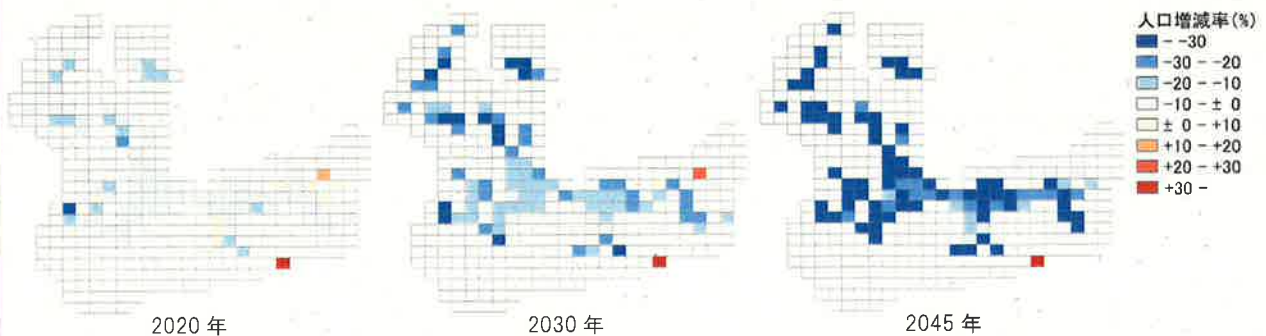
【2000年→2015年の人口増減率】



資料：総務省「国勢調査」

2000（平成2）年と2015（平成27）年の人口を比較すると、一部では宅地開発等により人口が増えている地域もありますが、全体として各地域で人口減少が見られます。特に内浦地区では、15年間で30パーセント以上の人口が減少した地域が多く見られます。

【500mメッシュによる将来人口予測（2015年比）】

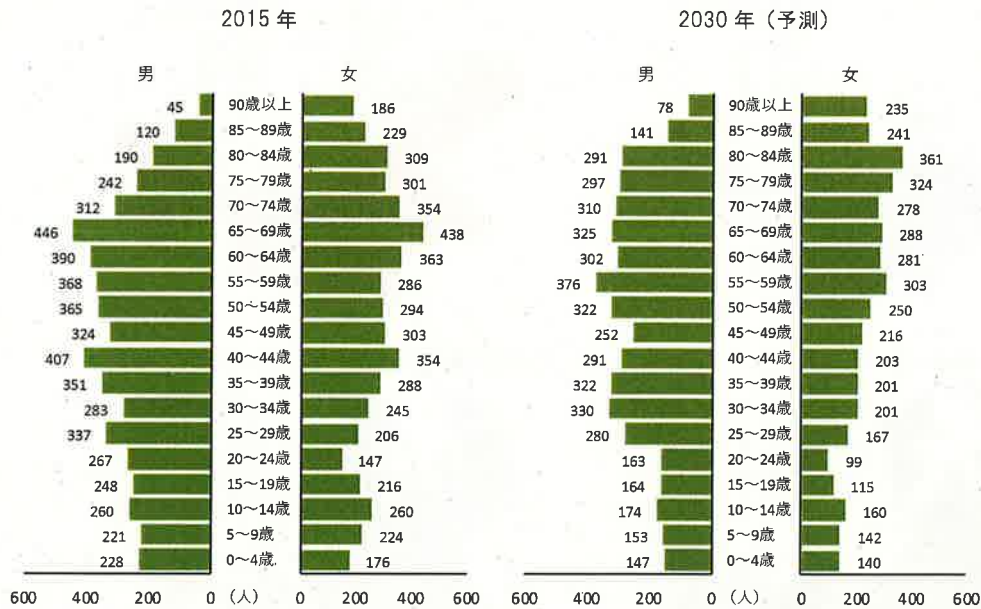


現状の推移では人口が増加している地域を含め、町内のほぼ全域で人口が減少していくと予測されています。

資料：国土交通省「国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口（H30国政局推計）」

男女別・年代別の人口構成

【人口ピラミッド】

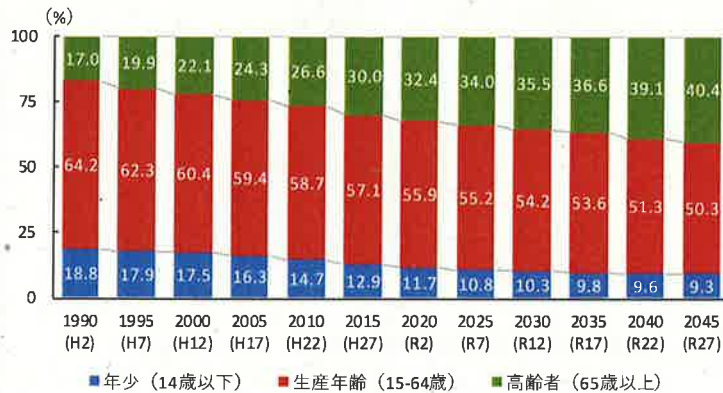


2015（平成 27）年の時点で、男女ともに最も多いのは「65～69 歳」となっており、「20～24 歳」の女性人口が特に少なくなっています。2030（令和 12）年には、全体として人口は減少するものの、後期高齢者は増加が見込まれています。

資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

年齢構成の推移と将来予測

【年齢 3 区分の人口構成比】



これまでの推移を見ると、年少人口（14 歳以下）と生産年齢人口（15～64 歳）の割合は減少し続け、高齢者人口（65 歳以上）の割合が増加し続けています。将来も同様の傾向が続き、2045（令和 27）年には町人口の 4 割以上が高齢者になると予測されています。

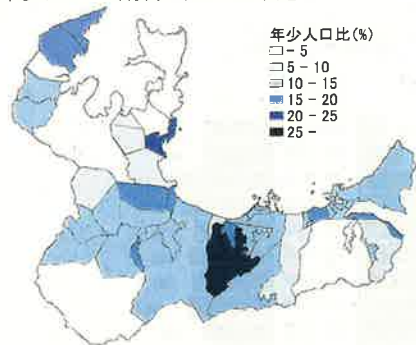


後期高齢者（75 歳以上）の割合が急増しており、2015（平成 27）年の時点で町人口の 15.3%が後期高齢者となっています。この傾向は将来も続き、2045（令和 27）年には町人口の 4 人に 1 人が後期高齢者になると予測されています。

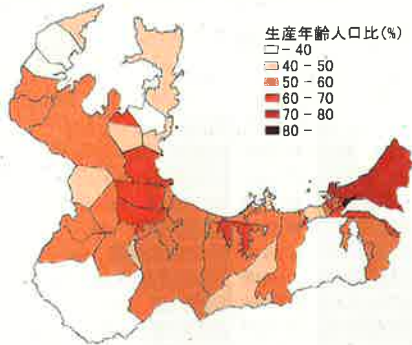
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

■ 地域別の年齢構成の現況

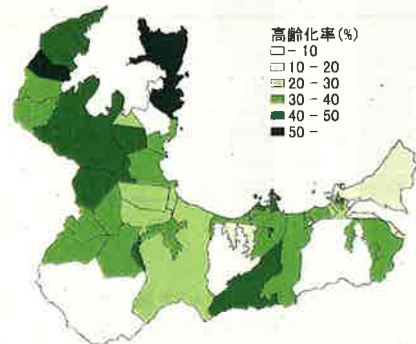
【年少人口の割合（2015年）】



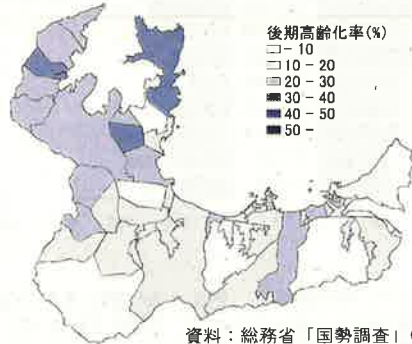
【生産年齢人口の割合（2015年）】



【高齢者の割合（2015年）】



【後期高齢者の割合（2015年）】

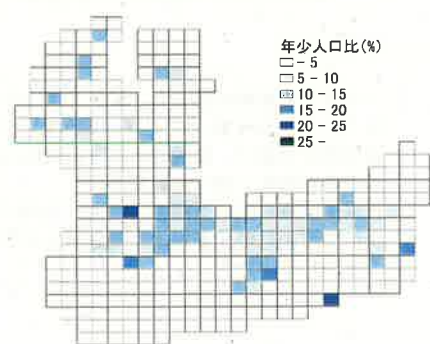


資料：総務省「国勢調査」（2015（平成27）年）

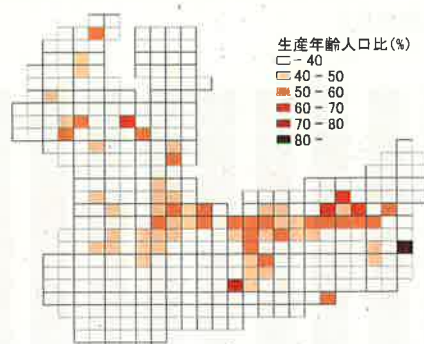
高浜、和田、青郷地区で年少人口、生産年齢人口の割合が高く、内浦地区で高齢者、後期高齢者の割合が高い傾向にあります。特に内浦地区の一部では高齢者が50パーセント、後期高齢者が30パーセントを超えており、既に深刻な状況にあるといえます。

■ 地域別の年齢構成の将来予測

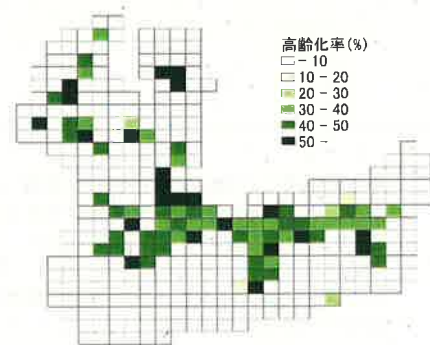
【年少人口の割合（2045年）】



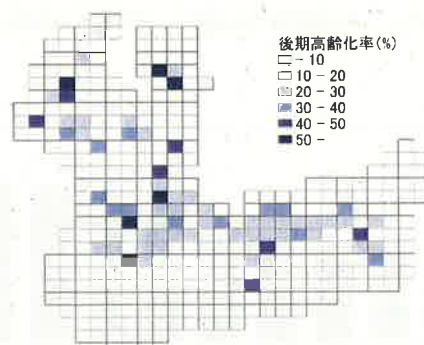
【生産年齢人口の割合（2045年）】



【高齢者の割合（2045年）】



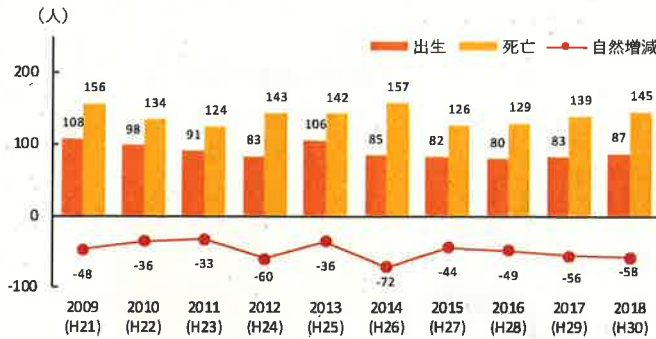
【後期高齢者の割合（2045年）】



2045年には、町内中心部においても高齢化率が50パーセントを超える地域が多く存在すると予測されています。

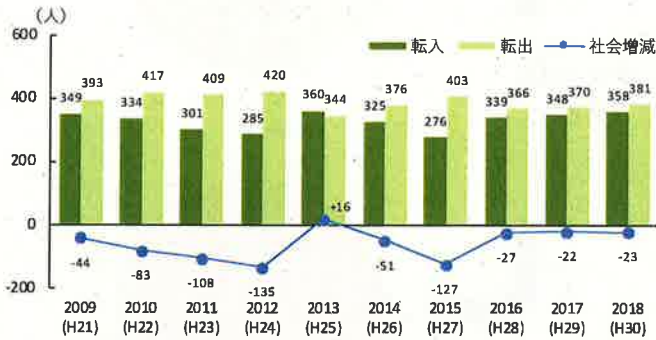
資料：国土交通省「国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口（H30国政局推計）」

■ 人口動態



【自然増減（出生・死亡）】

過去10年を通して、毎年出生数が死亡数を下回る「自然減」となっています。死亡数は年によってばらつきがありますが、出生数が緩やかに減少傾向にあります。

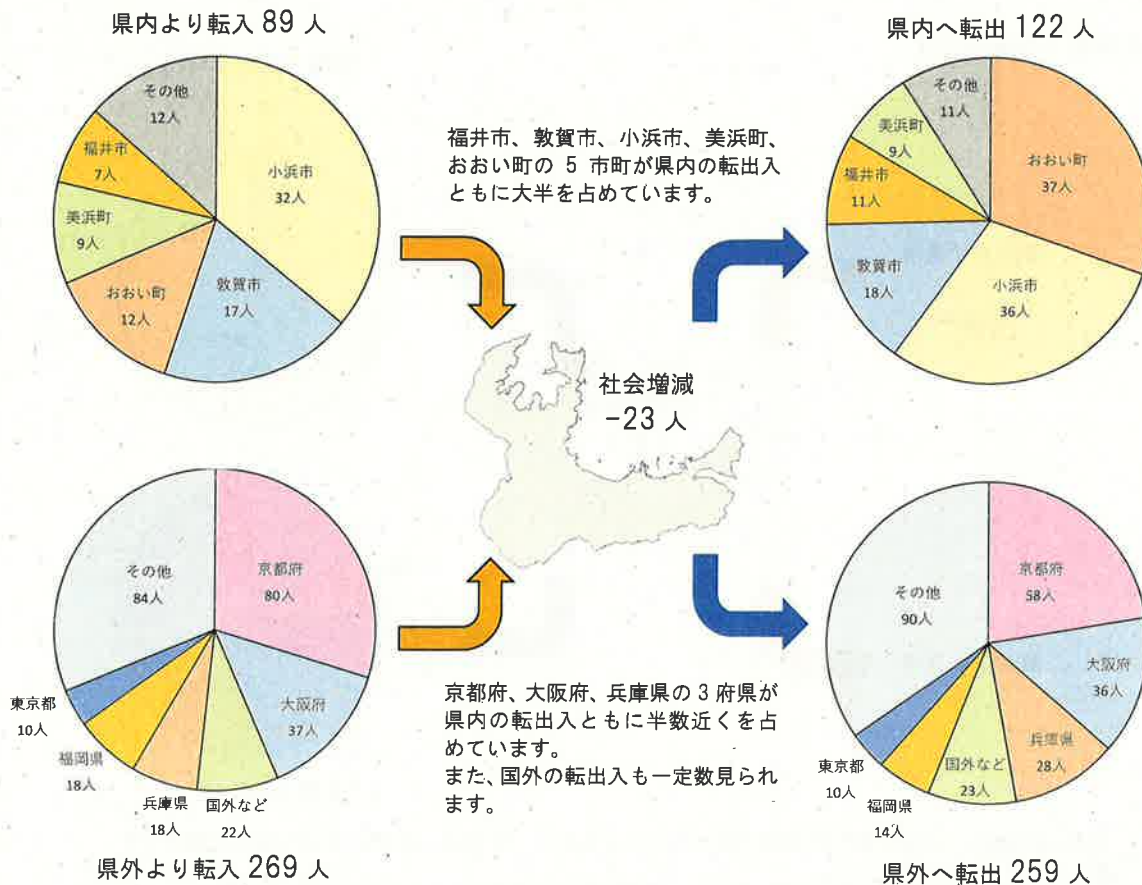


【社会増減（転入・転出）】

転入、転出ともに年によってばらつきがありますが、過去10年のうち平成25年を除く全ての年で、転入数が転出数を下回る「社会減」となっています。

資料：福井県統計情報課「福井県の推計人口」（住民基本台帳に基づく）

■ 主な転入元・転出先

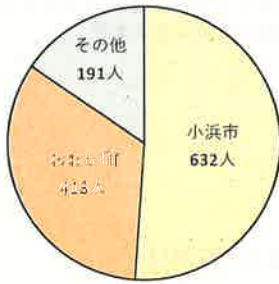


資料：福井県統計情報課「福井県の推計人口」（住民基本台帳に基づく）（2018（平成30年））

■ 通勤・通学による移動

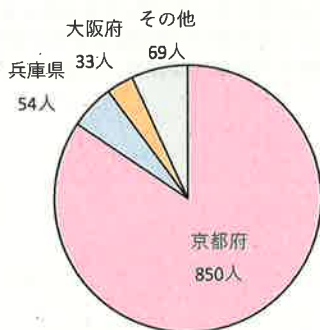
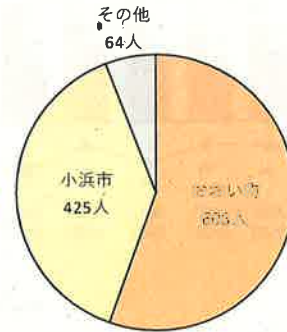
【通勤による移動】

県内より通勤 1,236 人



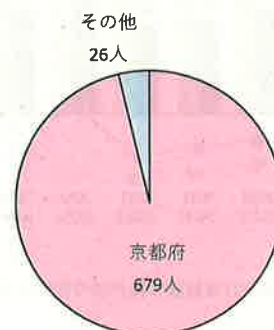
県内他市町との間の通勤による人の移動を見ると、町外からの通勤、町外への通勤ともに小浜市とおおい町が大半を占めています。

県内へ通勤 1,097 人



町内に常住
町内で通勤
3,931 人

県外との間の通勤による人の移動を見ると、町外からの通勤、町外への通勤ともに京都府、特に舞鶴市が大半を占めています。



県外より通勤 1,006 人

県外へ通勤 705 人

【通学による移動 (15 歳以上)】

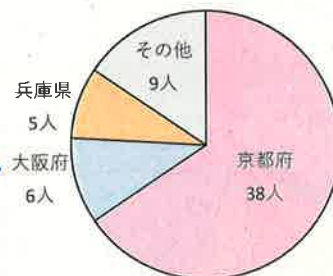
県内より通学
1 人
(小浜市)



県内へ通学 270 人



県外より通学
0 人

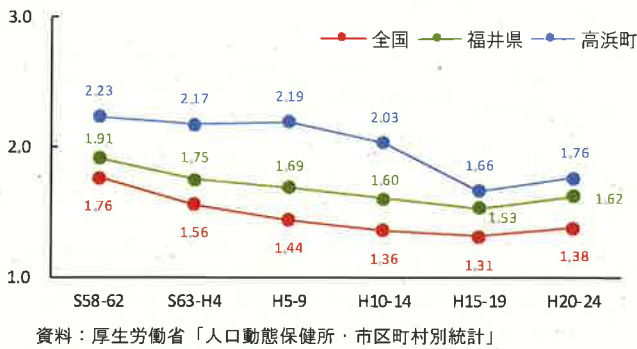


県外へ通学 58 人

町内に高等学校や大学、専門学校等が存在しないこともあり、15 歳以上の学生の大半は県内の他市町や県外に通学しています。
県内他市町への通学は大半が小浜市、県外への通学は大半が京都府によって占められています。

資料：総務省「国勢調査」(2015 (平成 27) 年)

■ 合計特殊出生率※

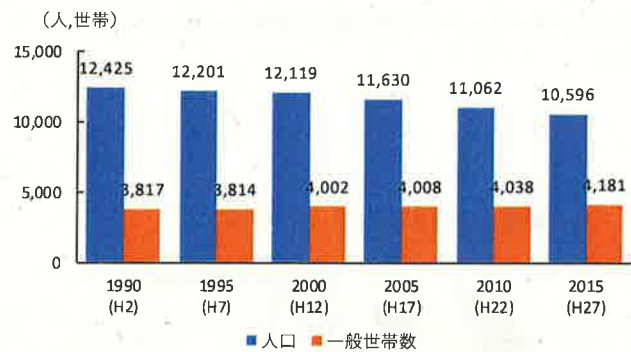


自然動態（出生や死亡）による人口減少を防ぐためには、合計特殊出生率が2.07以上であることが必要になります。高浜町の合計特殊出生率は、全国や福井県の平均よりも高い値を維持していますが、平成10～14年に初めて2.07を下回り、平成15～19年以降では大きく減少しています。

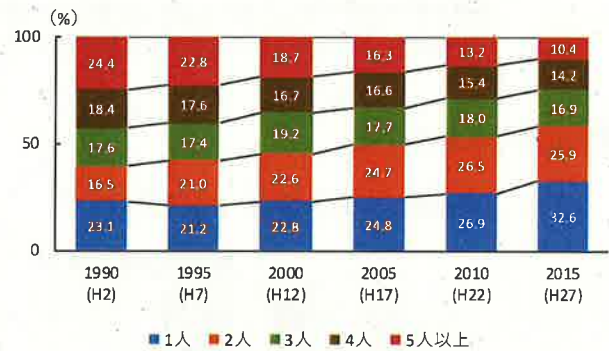
※合計特殊出生率
地域ごとに5年間の出生数を母親の年齢ごとに集計し、1人の女性が一生のあいだに産む、平均的な子どもの人数を算出したもの。

■ 世帯数および世帯人員

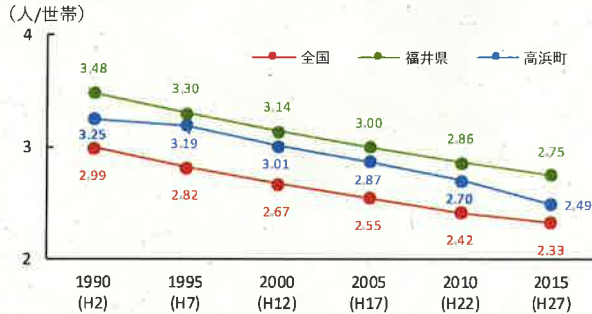
【人口と一般世帯数】



【人員別の世帯構成比】



【平均世帯人員】

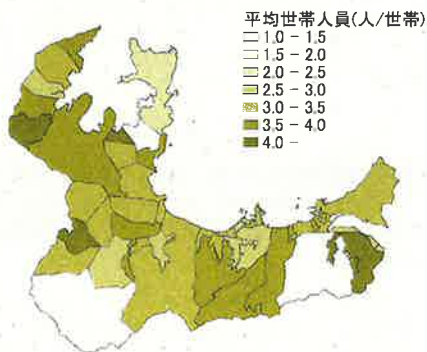


資料：総務省「国勢調査」

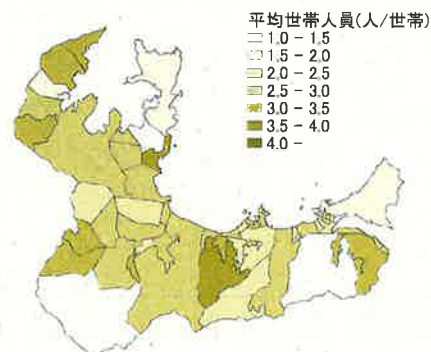
人口は減少を続ける一方で、世帯数は増加し続けています。1990（平成2）年と比較すると、5人以上の世帯が占める割合は2015（平成27）年は半数以下まで低下しており、単身世帯や夫婦世帯、核家族世帯が増えています。平均世帯人員（1世帯で暮らしている平均人数）で見ると、1990（平成2）年から2015（平成27）年の間で約0.8人減少しています。

■ 地域別の平均世帯人員

【平均世帯人員（2000年）】



【平均世帯人員（2015年）】

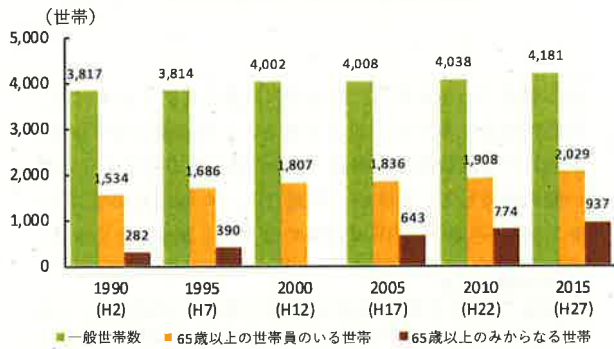


町内のほぼ全域で、平均世帯人員数が減少しつつあります。

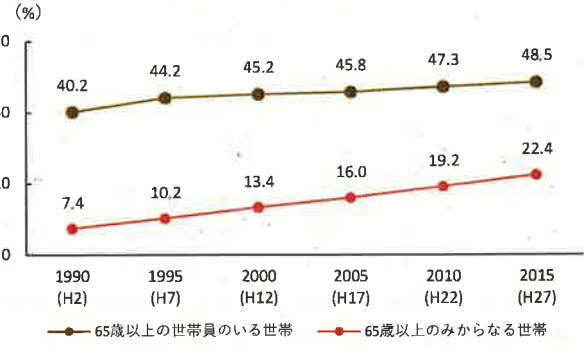
資料：総務省「国勢調査」

■ 高齢者世帯

【高齢者のいる世帯数の推移】



【高齢者のみ世帯の割合 (2015年)】



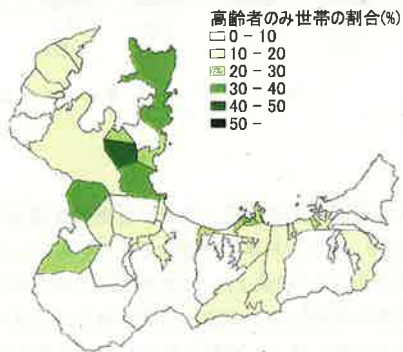
資料：総務省「国勢調査」

65歳以上の高齢者が暮らしている世帯の割合は徐々に増加しつつあり、2015 (H27) 年では全世帯のほぼ半数を占めています。

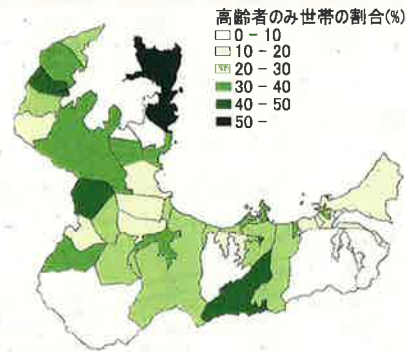
単身世帯や夫婦での二人暮らしなど、65歳以上の高齢者のみで暮らしている世帯の割合は急増しており、2015 (平成 27) 年の時点では全世帯の 2 割強を占めています。

■ 地域別の高齢者世帯

【高齢者のみ世帯の割合 (2000年)】



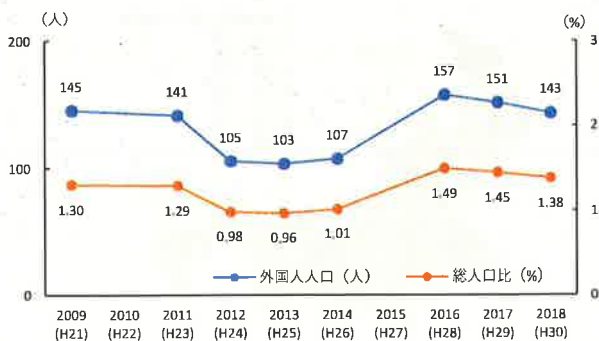
【高齢者のみ世帯の割合 (2015年)】



資料：総務省「国勢調査」(2015 (H27) 年)

町内のほぼ全域で、65歳以上の高齢者のみで暮らす世帯の割合は増加しています。特に内浦地区では、多くの地域で 30 パーセント以上の世帯が高齢者のみで暮らしている状況です。

■ 外国人人口の推移



現在の高浜町では、約 150 人の外国人が暮らしています。2012 (平成 24) 年から 2014 (平成 26) 年には 100 人程度まで減少しましたが、その後再び増加しています。

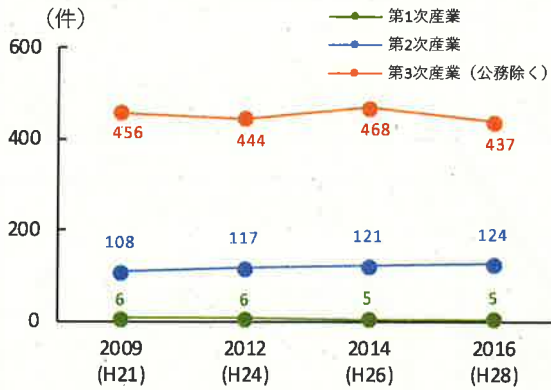
資料：福井県統計情報課「福井県の推計人口」(住民基本台帳に基づく)

産業

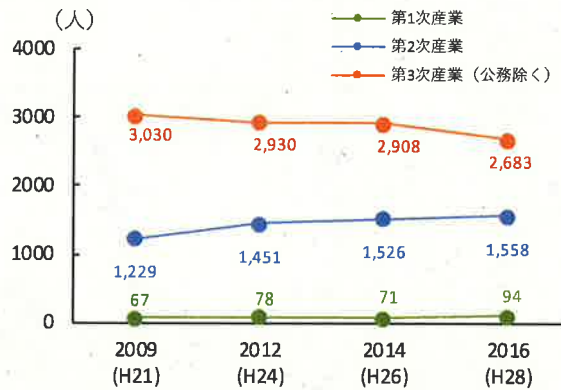
- 観光関連サービス業の担い手の高齢化が進展
- 人口減少に伴い、町内消費も縮小傾向
- 第1次産業の担い手が減少

■ 事業所数と従業者数の推移

【事業所数】



【従業者数】

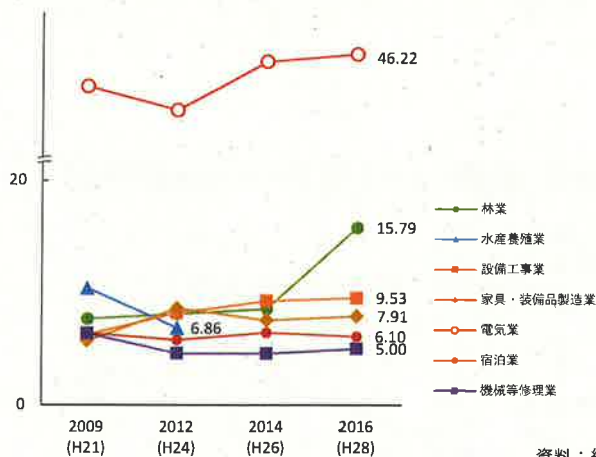


資料：総務省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」

2009（平成21）年以降の高浜町の事業所数および従業者数の推移を見ると、第2次産業（製造業）では事業所数・従業者数ともに増加傾向、第3次産業（サービス業、公務除く）では減少傾向にあります。

■ 修正特化係数※（主力産業）

【修正特化係数の推移（一部抜粋）】



高浜町で最も修正特化係数が高い業種は「電気業」で、他と比べても突出しています。他には、「林業」「家具・装備品製造業」のような木工関連産業、「設備工事業」「機械等修理業」のような電気業に関連した業種、民宿に代表される「宿泊業」が主力産業となっています。

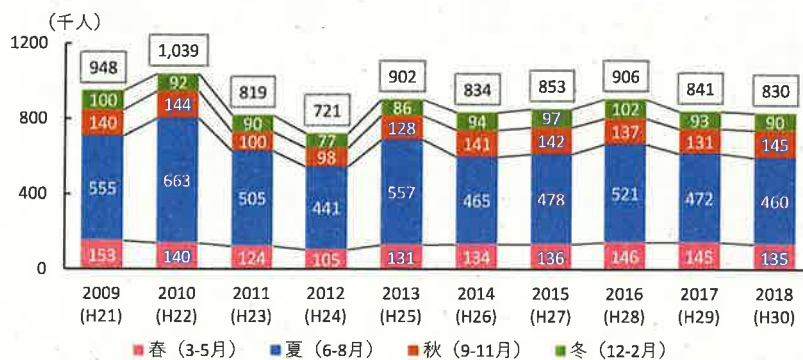
※「水産養殖業」は2014（平成26）年以降非掲載

※修正特化係数

各業種の地域内での従業者の比率を全国平均での従業者の比率で割り、輸出入額で調整したものの、1.0より大きい場合、その産業は他地域よりも稼ぐ力を持った「主力産業」であり、1.0より小さい場合は地域外に依存した産業であると言える。

資料：総務省「地域の産業・雇用創造チャートー統計で見る稼ぐ力と雇用力ー」

■ 観光入込客数の推移



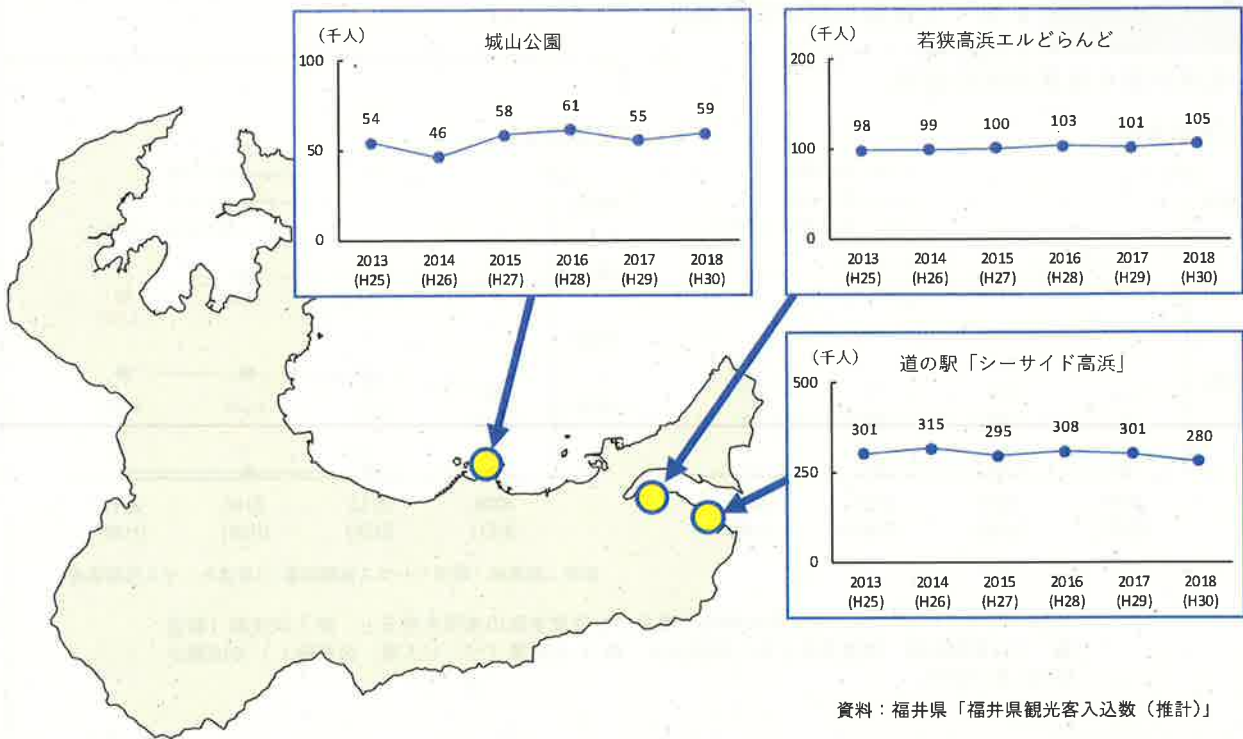
枠内の数値は年間の合計

資料：福井県「福井県観光客入込数（推計）」

東日本大震災の影響を受けた2011（平成23）年～2012（平成24）年を除くと、高浜町を訪れる観光入込客数は微減傾向にあります。

季節別に見ると、観光客の過半数は夏（6～8月）の海水浴シーズンに集中しており、最も少ない冬（12～2月）と比べると5倍以上の差があります。

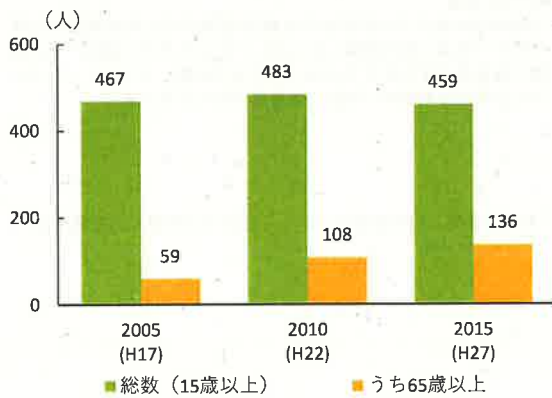
■ 町内主要観光施設の観光入込客数



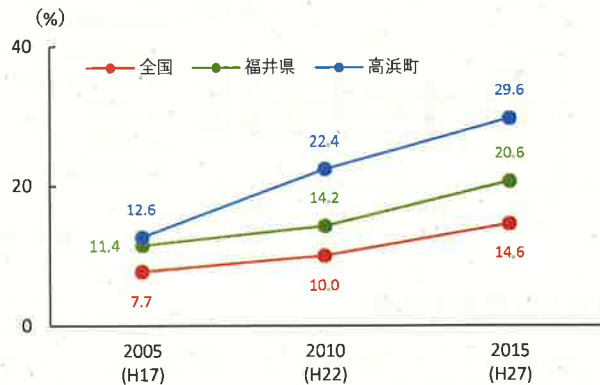
町内の主要観光施設「道の駅「シーサイド高浜」」「若狭高浜エルどらんど」「城山公園」の近年の観光入込客数は、ほぼ横ばいで推移しています。

■ 観光関連サービス業従業者数の推移

【飲食店、宿泊業の従業者数】



【飲食店、宿泊業における65歳以上の従業者の割合】

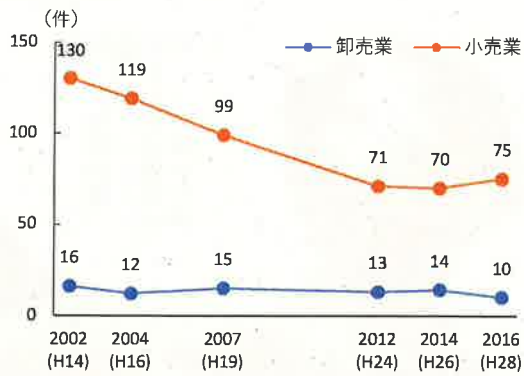


資料：総務省「国勢調査」

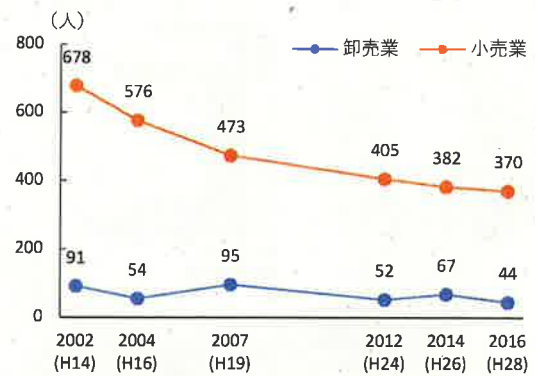
観光関連サービスに従事する人が多い「飲食店、宿泊業」を見ると、近年従業者数は横ばいですが、65歳以上の従業者の占める割合が急増し、ここ10年で倍以上となっています。全国や福井県の平均と比べても、65歳以上の従業者が占める割合は高く、観光産業における担い手の高齢化が進んでいると考えられます。

■ 商業の推移

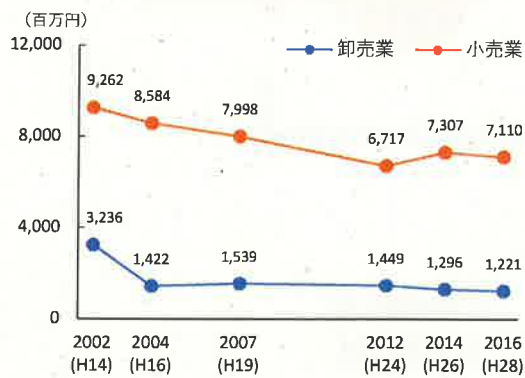
【事業所数】



【従業者数】



【年間商品販売額】



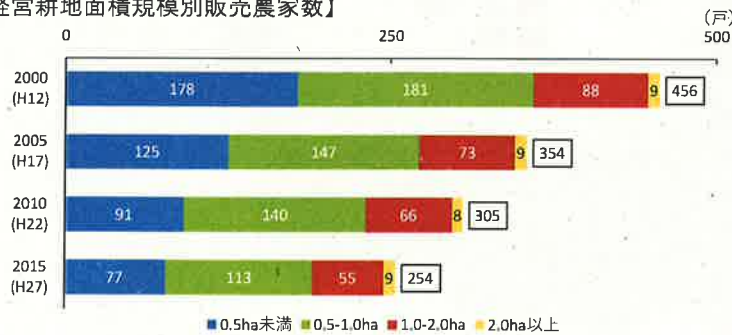
2002 (平成 14) 年から 2016 (平成 28) 年の推移を見ると、卸売業、小売業ともに減少傾向にあります。

特に小売業は、事業所数 (店舗数) にして約 4 割、従業者数にして約 5 割、年間商品販売額にして約 2 割減少しています。

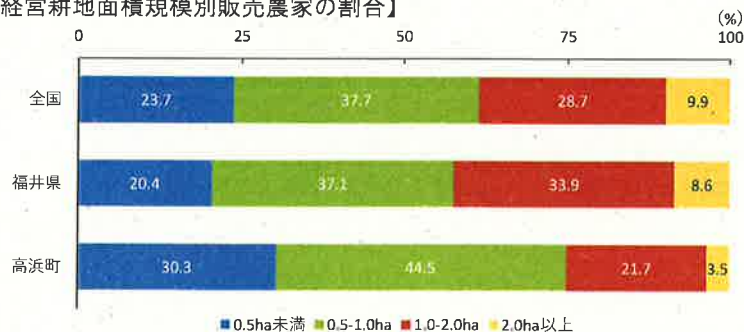
資料：経済産業省「商業統計」、総務省「経済センサス基礎調査」「経済センサス活動調査」

■ 経営耕地面積規模別販売農家数の推移

【経営耕地面積規模別販売農家数】



【経営耕地面積規模別販売農家の割合】



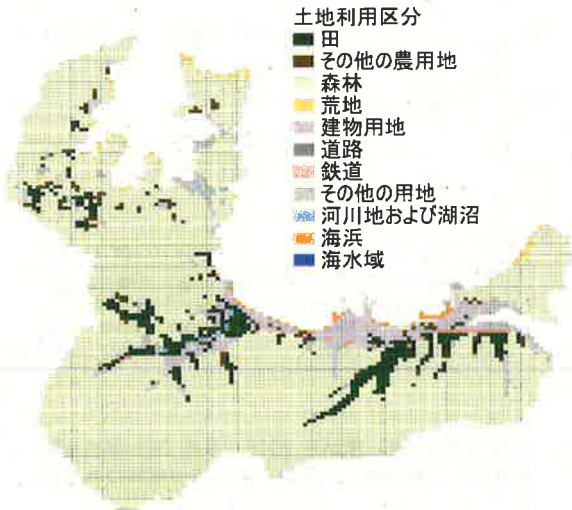
2000 (平成 12) 年から 2015 (平成 27) 年の 15 年間で、高浜町の販売農家の数はおよそ半分に減少しています。経営耕地の面積規模が小さい農家ほど減少の幅は大きく、経営耕地 0.5ha 未満の農家は 6 割近く減少しています。

しかし、高浜町では現在でも小規模の農家が主流であり、全国や福井県の平均と比べても、経営耕地面積の少ない農家の割合が高くなっています。

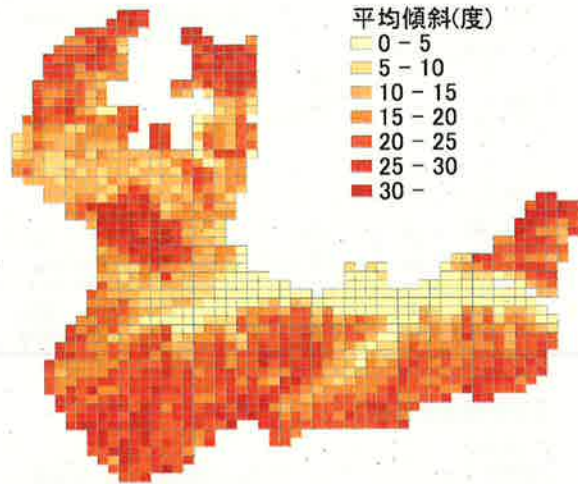
資料：農林水産省「農林業センサス」「世界農林業センサス」

■ 農用地の状況

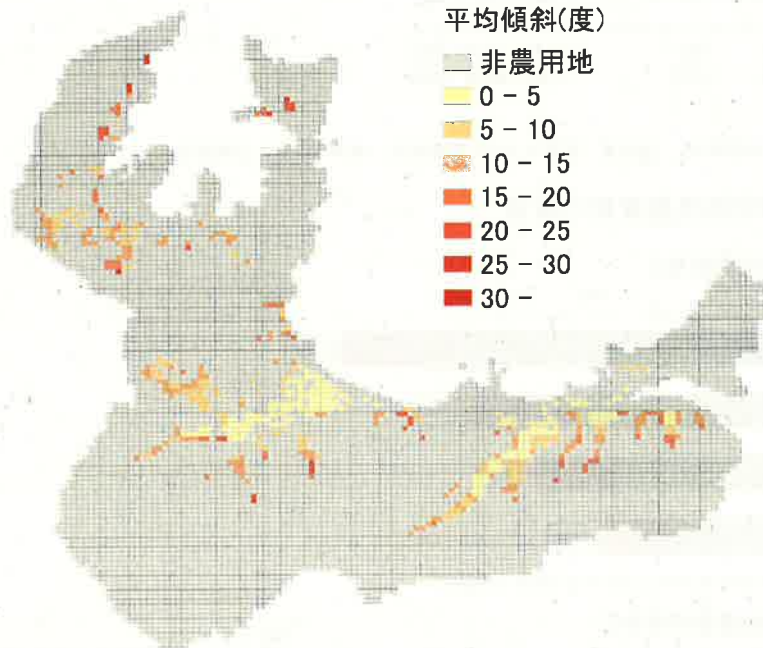
【土地利用区分 (100m メッシュ)】



【平均傾斜角度 (250m メッシュ)】



【農用地の平均傾斜角度 (100m メッシュ)】



資料：国土交通省「国土数値情報 土地利用細分メッシュ」「国土数値情報 標高・傾斜度 5次メッシュ」

高浜町の農業は、限られた平野部や傾斜のある中山間地を活用した小規模な農業が主流です。今後の農業経営のあり方として、大規模集約型は難しく、小規模でも効率的で経営力の高い農業が求められています。

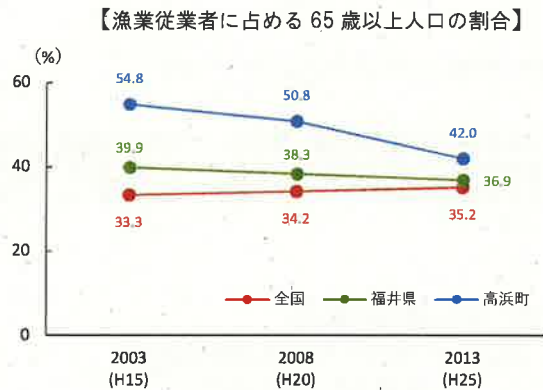
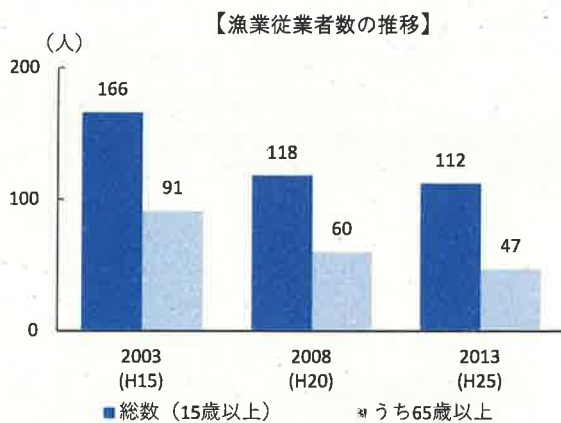
■ 漁獲量の推移



資料：農林水産省「海面漁業生産統計調査」

2017（平成 29）年の漁獲量が急増していますが、それ以前は年間 600～1000 トンの間を推移しています。漁獲量の大半は、大型の定置網漁によるものです。

■ 漁業従業者の推移



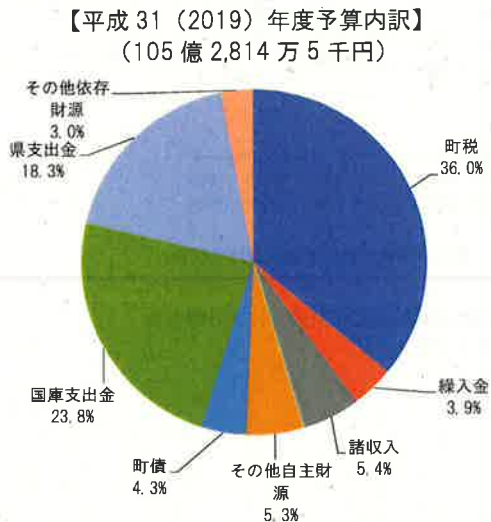
資料：農林水産省「漁業センサス」

漁業従業者の数は減少しつつあり、特に 65 歳以上の従業者数が大きく減少しています。2003（平成 15）年には 65 歳以上の従業者の割合が 5 割を越え、全国や福井県の平均を大きく上回っていましたが、2013（平成 25）年にはその差は縮小しています。

財政

- 歳入のうち、自主財源が50.6%、その中でも町税が最も多い
- 財政力は高く安定している
- 保育所や公共施設を直営で運営していることに起因して、人件費、物件費等が高くなっている

■ 歳入の状況



資料：高浜町「広報 たかはま 2019 年 5 月号」



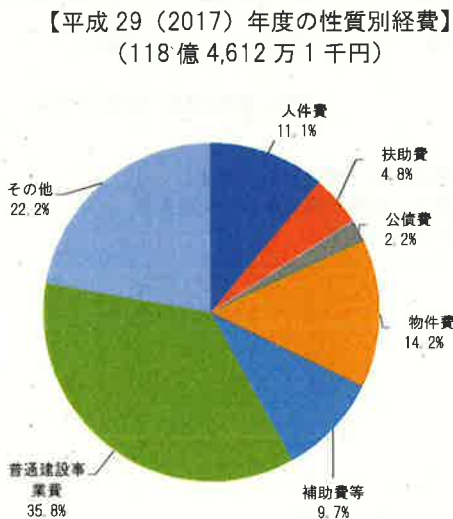
【町税の推移】



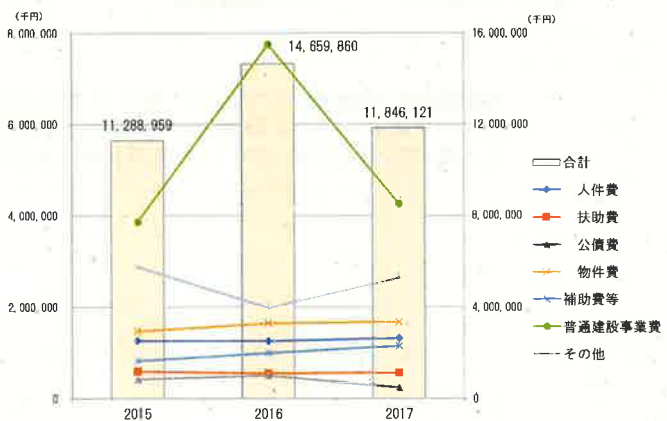
資料：高浜町「高浜町の財政状況資料集」

自主財源（町税、繰入金、諸収入、その他自主財源、町債）が50.6%、依存財源（国庫支出金、県支出金、その他依存財源）が49.4%となっています。また、「町税」の占める割合が最も多く36.0%となっています。歳入の推移をみると、2016（平成28年）が多くなっています。

■ 性質別にみた歳出の状況



【性質別経費の推移】



資料：高浜町「高浜町の財政状況資料集」

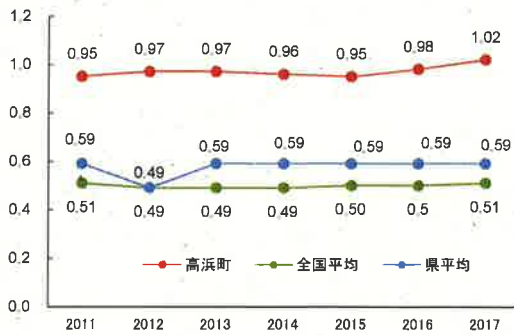
学校や公園、道路などの公共施設の建設費などの「普通建設事業費」が最も多く36.8%を占め、次いで「物件費」が14.2%、「人件費」が11.1%となっています。

性質別経費の推移をみると、2016年は「普通建設事業費」が突出して多くなっている。「公債費」は減少傾向、その他の費目は横ばいで推移しています。

■ 主な財政指標の推移

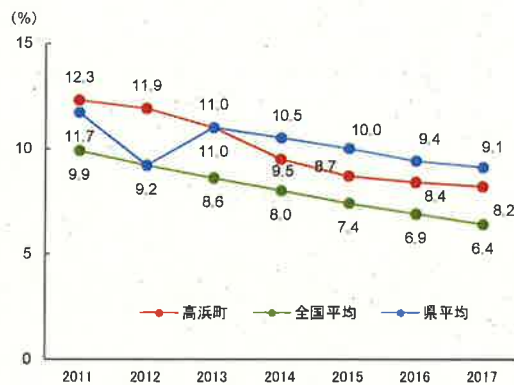
【財政力指数】

財政力指数が高いほど、財源に余裕があると見える。

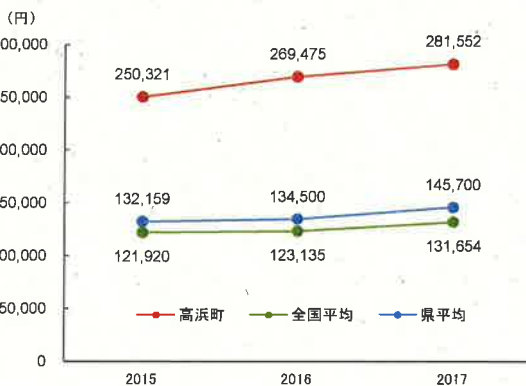


【実質公債費比率】

自治体の収入に対する負債返済の割合。財政の早期健全化等の必要性を判断する基準の一つであり、25%が早期健全化の基準

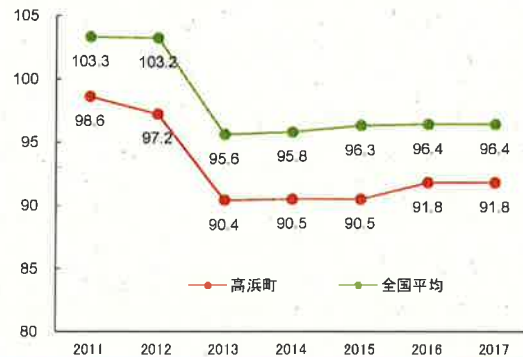


【人口1人あたり人件費・物件費等決算額】



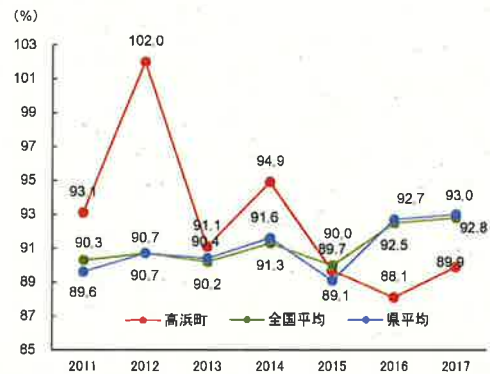
【ラスパイレス指数】

国家公務員行政職の月額給与を100とした場合の地方公務員一般行政職の給与水準



【経常収支比率】

毎年度経常的に収入される一般財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費の割合。財政構造の弾力性の度合いを判断する指標の一つで、数値が高いほど硬直化している。

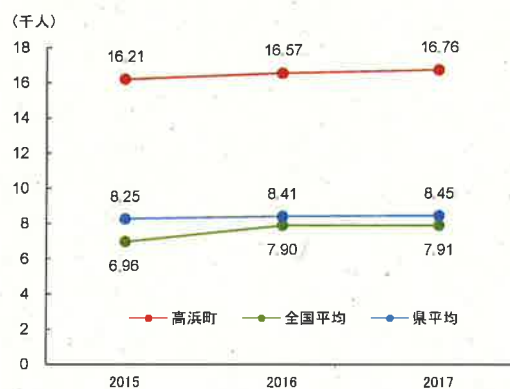


【将来負担比率】

自治体が将来負担すべき実質的な負債の比率。財政の早期健全化等の必要性を判断する基準の一つであり、350%が早期健全化の基準



【職員数（人口千人あたり）】



資料：総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」
RESAS「自治体財政状況の比較」高浜町「高浜町の財政状況資料集」

町民ワーキング委員会等の経過報告について

【委員会等開催状況】

○総合計画町民ワーキング委員会

- 第 1 回委員会 10/17 (木) 13:30～15:30 高浜町役場
- 第 2 回委員会 11/20 (水) 13:30～15:30 高浜町役場
- 第 3 回委員会 12/11 (水) 13:30～15:30 高浜町役場
- ▶ 第 4 回委員会 1/16 (木) 13:30～15:30 高浜町役場
⇒年度内に 5 回程度開催予定 (基本構想案の検討)

○総合計画策定委員会 (庁内課長級)

- 第 1 回委員会 2 月頃開催予定
⇒年度内に 1 回程度開催予定 (基本構想案の精査)

○総合計画検討委員会 (庁内実務担当)

- 第 1 回委員会 9/26 (木) 13:30～15:30 高浜町役場
- 第 2 回委員会 10/30 (水) 13:30～16:00 高浜町役場
- 第 3 回委員会 11/15 (金) 13:30～16:00 高浜町役場
- 第 4 回委員会 11/27 (水) 13:30～16:00 高浜町役場
- ▶ 第 5 回委員会 12/24 (火) 13:30～16:00 高浜町役場
⇒年度内に 7 回程度開催予定 (現計画の精査、基本構想案の検討)

【アンケート実施状況】

○住民アンケート調査 (町内在住 18 才以上 2,500 名無作為抽出)

- 調査期間 9/5 (木) ～9/20 (金)
- 回収状況 有効回収数 : 1,047 件 / 有効回答率 : 41.9%

○中学生アンケート調査 (町内の中学校に在籍する中学生 295 名)

- 調査期間 9/24 (火) ～10/11 (金)
- 回収状況 有効回収数 : 285 件 / 有効回答率 : 96.6 %

○職員アンケート調査 (一般職及び業務職 199 名)

- 調査期間 9/10 (火) ～9/20 (金)
- 回収状況 有効回収数 : 188 件 / 有効回答率 : 94.5%

【委員会等実施状況】

○総合計画町民ワーキング委員会

第1回 10/17 (木) 13:30～15:30 高浜町役場

会議概要

- ・ 策定方針とスケジュール説明
- ・ 現総合計画の成果と課題（報告）
- ・ 「住民の取り組み」と「協働の取り組み」について（ワーク）

ワークでの主なご意見

- ・ 高齢者の生きがいがいづくりの場となるサロン活動が充実している
- ・ サロンへの移動手段の確保が難しい
- ・ リタイヤした高齢男性による地域活動が進んでいる
- ・ 日引ふれあい広場などの地域の自主活動が進んでいる
- ・ 各種団体や各種イベントの継続実施するための人材が不足している
- ・ 町内の企業を知らない学生が多く、働く先がないと感じる人が多い
- ・ 各地区での行事の参加者の減少と継承が課題
- ・ 町内で同日にイベントを開催する際の連携、調整が必要

町民ワーキング委員会の様子



第2回 11/20 (水) 13:30~15:30 高浜町役場

会議概要

- ・ 現総合計画の総括について (報告)
- ・ 「10年後のめざす姿」について (ワーク)
政策分野① 保健・医療・福祉・防災
政策分野② 産業振興・観光振興
政策分野③ 住環境整備・環境保全

ワークでの主なご意見

- ・ 子どもから高齢者までみんなが元気なまち ①
- ・ 地域医療が充実した安心したまち ①
- ・ いくつになっても「社会的役割」(必要とされる)がある ①
- ・ 誰もが必要とされる ①
- ・ 自助共助で災害に備えるまち ①
- ・ 災害に強い地域づくり ①
- ・ 高浜ブランドの価値向上、今ある資源を磨く ②
- ・ やる気ある人の応援、若者のチャレンジを応援 ②
- ・ 生産する場と販売する場をつなげる仕組 ②
- ・ 生まれ育った町で働ける町 ②
- ・ 美しい、統一感のある景観、町並 ③
- ・ 夜でも明るい、安全・安心なまち ③
- ・ 子どもから高齢者まで、また、性別、障がいのあるなしにかかわらず全ての人にやさしい町 (バリアフリー) ③
- ・ ”もったいない”意識の醸成、高揚 ③
- ・ 町民だけでなく町外の人にも参加してもらう保全活動 ③

町民ワーキング委員会の様子



第3回 12/11 (水) 13:30~15:30 高浜町役場

会議概要

- ・「10年後のめざす姿」について (ワーク)
政策分野④ 子育て・教育
政策分野⑤ 住民自治・協働
- ・まちの「将来像」とその実現に向けた「住民主体のまちづくり」について (ワーク) ⑥

ワークでの主なご意見

- ・大学などへの進学で町外に出ても帰りたいと思える町 ④
- ・みんなが幸せ、健やかに子育てできる、保育所、「楽校」 ④
- ・地域ぐるみの子育て体制がある ④
- ・祭りには必ず帰ってきたい高浜 ④
- ・地域内のコミュニティが保たれている ⑤
- ・地域で主役になれる場がある ⑤
- ・子どもを巻き込んで、小中高生と一緒に活動・組織がある ⑤
- ・地域、全国、海外、様々な交流と学びがある ⑥
- ・自然あふれる、海、山、自然あふれる、自然と共存する ⑥
- ・住みよいまち、住んでよかった、みんなが住みやすい 笑顔あふれて暮らす ⑥
- ・隣近所での助けあい、人や地域とのつながり、おたがいさまの精神、世代を超えた交流、これらは自慢であり、次世代にもつなぎたい ⑥
- ・みんなが高浜町の一員だと自覚する ⑥
- ・頑張る人を応援する、「我がごと」として関わってみる ⑥
- ・一人ひとりができることを考える ⑥
- ・住む人が自分たちのために各自の力を発揮 ⑥

町民ワーキング委員会の様子



▶ 第4回委員会 1/16 (木) 13:30~15:30 高浜町役場

会議概要

- ・総合計画の全体構成について
- ・総合計画基本構想町民ワーキング（骨子案）について
- ・基本構想「将来像（まちやひとの姿）」について（意見交換）
 - ① 「子ども・子育て」「福祉」「保健・医療」「教育」分野
 - ② 「住民自治・コミュニティ・地域活動」「協働・行政経営」分野
 - ③ 「生涯学習・文化・スポーツ」「農林水産業」「商工・観光」分野
 - ④ 「環境」「住生活・都市基盤」「防災」分野
- ・基本構想「協働と行政経営」について

意見交換での主なご意見

将来像全体について

- ・町民目線と外から目線のバランスが大事。外から見た高浜町は、PRが控え目
- ・キャッチフレーズは簡潔に
- ・高浜らしい表現（高浜弁）は使えないか。
- ・自然、情景が浮かぶ、明るい、新しさが伝わるものになるとよい。
- ・住んでいる人が豊かさ、幸せを実感する表現がよい。
- ・“誰もが”の表現は、多様性を含んで考える（LGBTQ、外国人市民、障がい、高齢、100歳時代）
- ・テクノロジーの進歩により、高浜に居ながらにして“ボーダーレス（境界や国境がない）”な交流がある時代になる（都市部、世界中と交流できる）
- ・将来像に含めたい表現として「くるむ」はよい
- ・自然を「海・山」と表現しては。また、山は「青葉山」として共有できている
- ・自然とともに生きる、暮らすこと自体が、高浜町のライフスタイルであり、ブランド

① 「子ども・子育て」「福祉」「保健・医療」「教育」分野

- ・「くるむ」の表現は、この領域を包括できているのでは。（大きな輪のイメージ、出会い、つながりあい、育つイメージがもてる）
- ・「手をとりあう」「元気あたたかい」「声かけあい、おたがいさま」「誰もが必要とされる」「安心のあるまち」「くらしやすい」といったイメージが伝わるとよい
- ・子ども、親目線の表現として「夢を実現できる」といった趣旨を追加してはどうか

② 「住民自治・コミュニティ・地域活動」「協働・行政経営」分野

- ・ 「つなぐ」「つながる」「絆」「継承」「未来、将来へつなげる」「あらゆる世代が元気で頑張る」「ワガコト」といった表現はどうか
- ・ 流行語の「One Team (ワンチーム)」を日本語で表せないか
- ・ 誰かがやってくれるという姿勢があり、「みんなが“主役”」の意識が大事
- ・ 「持続可能」は大切だが、どこか「現状維持、よりよくなる」という状態が見えない(夢がない)
- ・ まち全体の「一体感」(all たかはまの力)として団結や統一感を表せるとよい

③ 「生涯学習・文化・スポーツ」「農林水産業」「商工・観光」分野

- ・ 特産品、観光地としてのブランド化＝「誇り」「誇れる」ことであり、地域について学ぶことも「誇り」となることにつながる
- ・ 「自信」「働きがい」「いきいき」「生きがい」などはどうか
- ・ 「地域産業の活性化」や価値を共有する意味で「あるものみがき」の視点は大事。きれいな海は大事

④ 「環境」「住生活・都市基盤」「防災」分野

- ・ 高浜町らしく「自然」を表現するのであれば、「海・山・砂浜」
- ・ 高浜の砂浜は白く長いことが特徴で、町全体にあり、自慢できる大切な資源
- ・ 自然と関わりが減っているが、砂浜はその維持管理に今でも多くの人に関わっており、「自然とともに」のシンボルでもある
- ・ 「自然と人」を打ち出してはどうか。「自然をつなげていく・つながる」「自然と人がかもし出す」「自然と人とのハーモニー」「自然と人とが織りなす」「美しの浜と心」としてはどうか
- ・ 自然とともに生きる「暮らし方」よりも「価値のある表現」
- ・ 災害が少なく安心

町民ワーキング委員会の様子



○総合計画検討委員会

第1回 9/26 (木) 13:30～15:30 高浜町役場

会議概要

- ・策定方針とスケジュール説明
- ・現総合計画の総括資料の作成

第2回 10/30 (水) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・現総合計画の総括資料の作成
- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)
政策分野① 保健・医療・福祉・防災
政策分野② 産業振興・観光振興

第3回 11/15 (金) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)
政策分野③ 住環境整備・環境保全

第4回 11/27 (水) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・「次期計画に向けた課題」「10年後のめざす姿」について (ワーク)
政策分野④ 子育て・教育・協働・その他

▶ 第5回 12/24 (火) 13:30～16:00 高浜町役場

会議概要

- ・基本構想「将来像 (まちやひとの姿)」について (ワーク)
- ・基本構想「協働と行政経営」について (意見交換)

検討委員会の様子



【意見交換実施状況】

○子育て世代との意見交換会 11/21（木）19:00～20:45 高浜町役場
総合計画への住民意見を反映するため、子育て世代と総合計画町民ワーキング委員との意見交換会を開催（ワークショップ形式）

【参加者数】子育て世代 8名（男性2名、女性6名）
町民ワーキング委員 7名（男性6名、女性1名）

意見交換会での主なご意見

子育て施策関連

- ・「高浜町で産まれた！」といえるよう、町内で出産できる環境整備
- ・多胎児育児に訪問型のサービス（訪問看護）の導入
- ・子どもの急な病気に（夜間）対応できる病院や施設整備

地域との関わり

- ・地域に愛着を持った子どもが増えるように
- ・老人と子どもの交流イベントを行う場があると良い
- ・地域の人たちと子どもがつながる、関わる地域にする
- ・親子の交流ができる町であってほしい

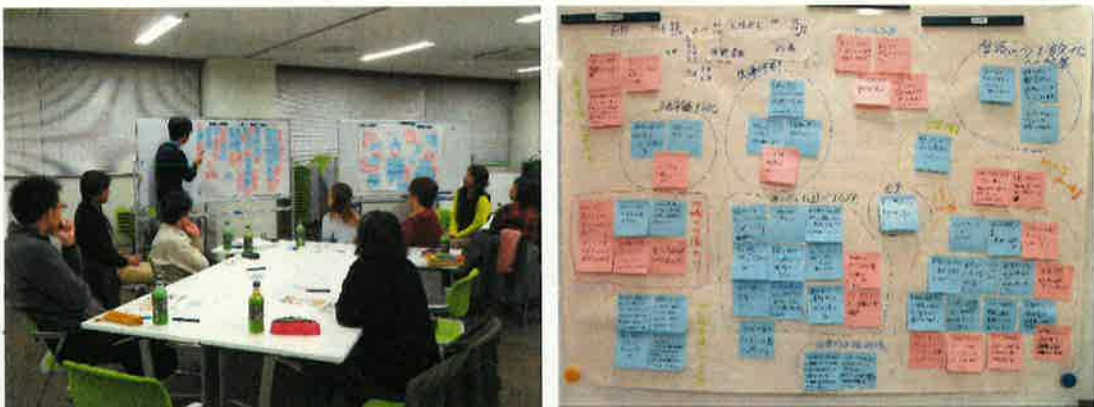
公園、遊び場

- ・子どもから大人まで一緒に汗をかける遊び場を作る
- ・一つの遊び場で年齢に応じた遊びができる場所を設ける
- ・一つの遊び場で最低2種類の機能を持った場をつくる
- ・交流の場となる地域の拠点づくり

その他

- ・大学や進学で町外に出ても、「地元に戻って仕事しよう」、あるいは、「家庭を持ちたい」と思えるようになることよい
- ・子育て世代が助けてほしい時、経験者がすぐ手助けできるマッチングサービスがあるとよい

意見交換会の様子



○住民団体（おやジューの会）との意見交換会

11/12（火）11:00～12:00 瑞祥苑

総合計画への住民意見を反映するため、住民団体と総合計画検討委員との意見交換会を開催

【参加者数】おやジューの会会員 10名

総合計画検討委員 4名

意見交換会での主なご意見

- ・地域の文化や文化財、文化活動に対して行政の積極性が感じられない
- ・高齢化社会を見据えて施設のバリアフリーに取り組むべき
- ・個別計画と総合計画が連携しているようには感じられない
- ・住民意見を聞く機会を増やしてほしい
- ・医療、防災、鳥獣害対策など、広域的視点が必要な施策は計画の広域化が必要
- ・老朽空き家対策に取り組んで欲しい
- ・子ども（孫）を安心して遊ばせることができる場所が少ない
- ・（総合計画の）基本構想に高浜らしさを入れるべき
- ・新しい施設整備ではなく、既存施設をリニューアルし、2内容充実を図るべき
- ・色々な取組をしているが、取組結果や総括などの広報がなされておらず、それら総括を踏まえたフォローアップを丁寧に行うべき
- ・行政の取組への認知が低い、PRを上手く行っていくべき
- ・（6次化施設について）行政と議員、住民の理解醸成が図られているとは感じられない。納得できる丁寧な説明、理解醸成を図るべきではないか
- ・財政面との整合のある計画作りをしていくべき
- ・地区や地域の声を吸い上げる仕組みを構築してはどうか

総合計画の全体構成

I 序論

1. 計画策定の趣旨

- これまでの高浜町のまちづくり
 - ・ 第1次総計（1989～2000）
 - ・ 第2次総計（2001～2010）
 - ・ 第3次総計（2011～2020）

2. 高浜町の特長

- (1) 位置と地勢
- (2) 自然・歴史・文化
- (3) 人口
 - 人口の推移と推計
 - 年齢3区分別人口割合の推移
- (4) 財政
 - 歳入と歳出の推移

3. 社会動向

- 持続可能な社会づくりを『誰一人取り残さず』に進める時代へ
- 『少子・高齢化』と『人口減少』が、『一段と加速』する時代へ
- 一人ひとりが尊重され、誰もがもっと『自分らしく活躍できる』時代へ
- 様々な『技術革新』が、人々の生活に『劇的な変革』をもたらす時代へ
- 大規模自然災害に備え、『防災・被災時対応力』を培う時代へ
- 持続可能な自治体経営と新しい住民自治を構築する時代へ

4. 前高浜町総合計画の成果と課題

「基本目標」ごとに「成果と課題」を整理し、記載

- | | |
|-------|----------------------|
| 基本目標1 | 誰もが安心して暮らせるまち |
| 基本目標2 | いきいきと働くことができるまち |
| 基本目標3 | 安全・快適で住みやすいまち |
| 基本目標4 | 豊かな自然を守り、地球環境に貢献するまち |
| 基本目標5 | 学びあい・教えあい、そして、人を育むまち |

町民ワーキングとしての基本構想案を作成

(第1～3回：構想案の構成要素ごとに検討、4～5回：案として検討)

II 基本構想

1. 位置づけと計画期間

- 計画の位置づけ（役割、目的）
- 基本構想、基本計画、実施計画の構成、計画期間の明示

2. 将来像

- (1) まちやひとの姿
- (2) 人口

3. 協働と行政経営

- (1) 住民主体のまちづくり
- (2) 協働のまちづくり
- (3) 持続可能な行政経営

III 基本計画

1. リーディングプロジェクト

- 今後5～10年間、まちづくりを「牽引する」「重視する」プロジェクト

2. 施策の体系

- 「1. リーディングプロジェクト」「3. 分野別の施策」を一覧として記載

3. 分野別の施策

- 分野ごとに「めざす姿」「概況・課題」「施策名」「施策概要」「指標と目標値」などを記載

参考：分野（例）

- ①人権・平和
- ②保健・医療
- ③子ども・子育て
- ④高齢福祉
- ⑤障害福祉
- ⑥地域福祉
- ⑦防災・安全
- ⑧住民自治・地域活動
- ⑨農林水産業
- ⑩商工業
- ⑪観光
- ⑫住まい・生活環境
- ⑬市街地
- ⑭道路・交通
- ⑮自然環境
- ⑯循環型社会・低炭素社会
- ⑰学校教育・青少年
- ⑱生涯学習・文化・スポーツ
- ⑲都市経営

- ・ 分野は今後の検討を踏まえ、調整します
- ・ 行政全体を見渡すことを重視し、すべての分野について、今後の方向、目標を示します。
- ・ 一方で、重視することがわかるよう、「1. リーディングプロジェクト」で特出しして整理します

※町民ワーキングからの意見
(第1～3回)

- ・ 分野ごとに記載する「めざす姿」へ反映
- ・ 取組のアイデアについては、庁内での検討を踏まえ、「施策概要」「実施計画」への反映を検討

4. 計画の推進

- 計画の進行管理
- 指標一覧（「3. 分野別の施策」で各ページに掲載した指標の一覧）

■資料編

- 諮問、答申／○ 策定経過／○ 策定体制
- 委員会名簿（審議会、町民ワーキング、検討委員会、策定委員会）
- 「わたしたちが取り組んでいくこと」[町民ワーキング委員会の主な意見]

高浜町総合計画 基本構想 町民ワーキング委員会（骨子案）

◆目次

1. 位置づけと計画期間
2. 将来像
3. 協働と行政経営

【資料編】

1. 町民ワーキングの開催スケジュールと検討内容
2. 町民ワーキング委員名簿
3. 「わたしたちが取り組んでいくこと」 [町民ワーキング委員会の主な意見]

1. 位置づけと計画期間

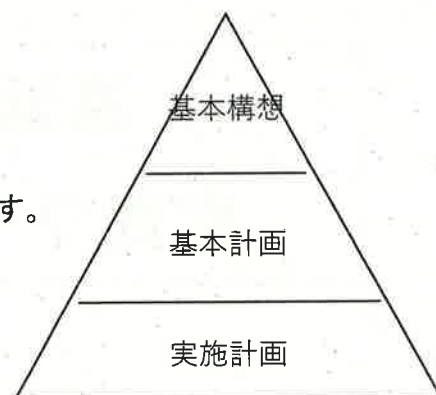
【位置づけ】

- ・ 総合計画はまちづくりの「最上位計画」
- ・ 住民・事業者・町が「将来像」を共有し、まちづくりに取り組む計画
- ・ まちづくりに関わる住民・事業者・町などの各主体の行動指針
- ・ 行財政運営の指針

【計画の構成と計画期間】

■ 基本構想（10年）

- ・ 基本構想は、まちの将来像とそのめざすべき方向を示します。
- ・ 計画期間は、令和3（2021）～12（2030）年度の10年間



■ 基本計画（10年）

- ・ 基本計画は、基本構想にかかげる将来像の実現を図る施策を示します。
- ・ 計画期間は、令和3（2021）～12（2030）年度の10年間
ただし、計画の着実な進行を図るため、5年が経過した令和7（2025）年度に、後期5年間（令和8（2026）～12（2030）年度の必要な見直しを行うこととします。

■ 実施計画（5年）

- ・ 実施計画は、基本計画で定めた施策の具体的な事業内容と財政的な裏付けを示します。
- ・ 計画期間は、基本計画期間を前期と後期に分けた5年間とします。
- ・ ただし、毎年度3か年間を目途に修正、補完を行うことにより進捗把握と必要に応じ、計画の見直しを行うこととします。

2. 将来像

(1) まちやひとの姿

※ 内容詳細については、**資料4-1** を参照

記述イメージ

2. 将来像

(1) まちやひとの姿

キャッチフレーズ

(趣旨)

- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

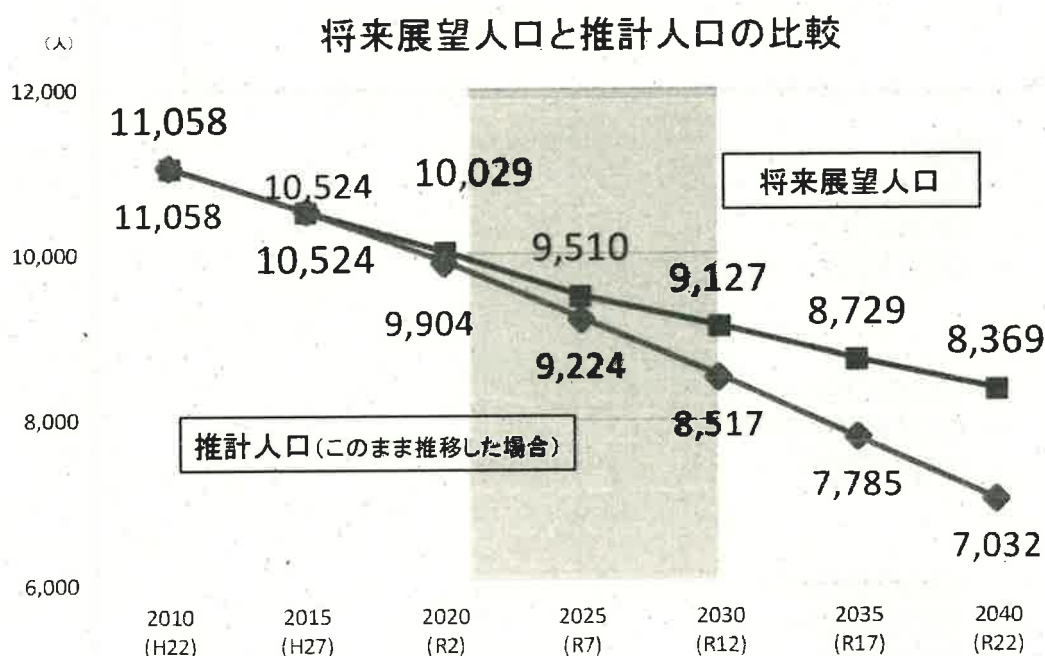
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

- ・ キャッチフレーズで表現しようとする「めざす姿」について説明
- ・ 基本計画で整理する「分野のまとめり」を考慮して、3～4ブロックで記述

(2) 人口

- ・本町では人口減少が続いており、令和 22 年（2040 年）の人口は 7,032 人と推計され、より一層の人口減少と高齢化、さらには生産年齢人口の減少が見込まれます。
- ・「高浜町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という）」で掲げた「将来展望人口」を踏まえ、緩やかな人口減少と年齢構成のバランスの維持により、持続可能な地域を実現し、本計画の目標年次である令和 12 年度（2030 年度）において 9,100 人、「人口ビジョン」の目標年次である令和 22 年度（2040 年度）において、8,300 人の人口維持を目標とします。

町の将来人口（令和 12（2030）年度） 9,100 人



資料:「高浜町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」

3. 協働と行政経営

記述イメージ

3. 協働と行政経営

[前文]

- 3-5 行程度のリード文。

(1) 住民主体のまちづくり

-
-
-

(2) 協働のまちづくり

-
-
-

(3) 持続可能な行政経営

-
-
-

(0) 前文

【記述内容】

- ・ 総合計画に基づくまちづくりの究極的な目的は『みんな』の高浜町での生活の満足度を高めること。
- ・ 従って、これに係るすべて活動は『みんな』で取り組むもの。
- ・ なお、『みんな』には、現在の町民はもとより、将来世代、高浜町に関わる人々も含める。

【検討の素材】

	意見等
次期計画の策定方針	<ul style="list-style-type: none">・ よりよい“まちづくり”を総合的かつ計画的に推進するための町の最上位計画・ 住民と行政の協働のまちづくりの目標・ 総合的かつ計画的な行政運営の指針・ まちづくりの課題を住民と共有しながら将来にわたって持続可能な活力あるまちづくりを進める必要がある
現総計	<ul style="list-style-type: none">・ 「一人ひとりが主役になる」「住民一人一人がまちづくりの当事者である」（将来像）
社会動向	<ul style="list-style-type: none">・ SDGs を踏まえたまちづくり（誰も取り残さない）・ 加速化する少子・高齢化、人口減少社会・ 交流人口・関係人口による地域活性化の模索

(1) 住民主体のまちづくり

ここでは「我がこと」のまちづくりについての記述を想定します。

【記述内容】

- ・ まちづくりは「高浜町への愛着」と「高浜町民であることの自負心」（シビックプライド）に根ざすもの。
- ・ 交流人口・関係人口も、ともに高浜町のまちづくりに関わる「行動主体」として捉える。

【検討の素材】

	意見等
町民 W/検討委員での意見	<ul style="list-style-type: none">・ 「高浜町の一員として」との思いが大事。・ 自分達のために各自の力を発揮する。・ 地域で活躍できる場がある。「我がこと」として関わる。・ 子どもの頃から地域に関わる。・ 一度離れても戻ってきたいと思える町にしたい。・ 「愛着」という表現はよい。
現総計	<ul style="list-style-type: none">・ 「一人ひとりが主役になる」「住民一人一人がまちづくりの当事者である」（将来像）
社会動向	<ul style="list-style-type: none">・ 「誰もが」尊重される、多様性を前提とする社会へ。・ 訪日外国人、外国人住民の増加。・ 交流人口・関係人口による地域活性化の模索。

(2) 協働のまちづくり

ここでは「それぞれが役割と責任を果たす」「手を取り合う」まちづくりについての記述を想定します。

【記述内容】

- ・ 協働は、まちの「問題解決」「魅力向上」「新たな価値の創出」といった、公益公共的な目的における活動である。
- ・ まちづくりに係る多様な行動主体が、それぞれに「役割」と「責任」をもって行う。
- ・ まちづくりの行動主体とは、住民、自治会や地域活動団体、事業者、行政、交流・関係人口などをいう。
- ・ それぞれの行動主体は対等な立場で相互に理解しあい、連携・協力する。

【検討の素材】

	意見等						
町民 W/ 検討委員での意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張る人を応援する。 ・ 協働が進んだ分野とそうでない分野がある。 ・ 住民だけでなく、事業者、企業等との様々な協働の取組もある。 ・ 20～40代の若いリーダー、団体がでてくるとよい。 ・ まちづくりに参画する人が出てくる環境をつくる。 ・ 組織が運営、体制、経済面での自立が必要。 ・ 自治会の役割など時代にあったものに。 						
これまでの協働成果 [現総計総括資料より]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民自身が健康づくりの発信者、担い手となり事業を展開。 ・ 自主防災組織の編成、地区防災訓練の実施。 ・ 各集落での鳥獣被害対策実施隊の編成と対応。 ・ 漁火想から若手花火グループ「櫓龍」が活躍。 ・ 観光協会と若狭町の民間事業者によるパドリングフェスタの開催。 ・ まちなか交流館において、NPOなどによるまちなかにぎわい創出のための活動。 ・ 住民による砂浜の清掃。 ・ 婚活イベント、オープンガーデン、和田 de 路地祭等を開催。 						
現総計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「協働のまちづくりのルール」 <table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分や家族</td> <td>何ができるかを考え、自分や家族でできることは進んでやっつけていこう。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域や団体の仲間</td> <td>地域やまちの身近な課題に対して、地域でできることをやっつけていこう。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">役場</td> <td>住民や団体等と協働して取り組むための環境整備、サポート役、コーディネーター役。</td> </tr> </table> ・ 住民等と行政との協働による「選ばれる」町の実現（基本要件1） 	自分や家族	何ができるかを考え、自分や家族でできることは進んでやっつけていこう。	地域や団体の仲間	地域やまちの身近な課題に対して、地域でできることをやっつけていこう。	役場	住民や団体等と協働して取り組むための環境整備、サポート役、コーディネーター役。
自分や家族	何ができるかを考え、自分や家族でできることは進んでやっつけていこう。						
地域や団体の仲間	地域やまちの身近な課題に対して、地域でできることをやっつけていこう。						
役場	住民や団体等と協働して取り組むための環境整備、サポート役、コーディネーター役。						
社会動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子・高齢化と人口減少が加速する時代でのコミュニティの維持（防災面での不安の増大も） ・ 地球温暖化の影響による大規模自然災害の多発で一段上の備えの必要性の高まり。 ・ IoT、AIなど新しいテクノロジーが、生活に劇的な変化をもたらしつつある時代。 ・ 社会問題を事業で解決する企業の増加。 ・ 「人生100年時代」の到来、定年の延長。 						

(3) 持続可能な行政経営

ここでは「持続可能性」を踏まえた行政経営についての記述を想定します。

【記述内容】

- ・ 将来にわたって、必要な行政機能を確実に維持する必要がある。
- ・ コンプライアンスの遵守を前提とした、取り組みの適切な進行管理など、確実な行財政マネジメントを行う。
- ・ 広域連携やテクノロジーの活用、住民・起業等との協働のプラットフォームの拡充など、行政効果を高め、より効率的に実行できる手段を積極的に活用する。

【検討の素材】

	意見等
町民 W/検討委員での意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未利用地等の公共財産の有効活用。 ・ コンパクトで効率的な行財政運営（集約化） ・ 将来世代へ財政負担を先送りしない。 ・ 職員減少による業務過多。 ・ 少ない職員数での行政運営のリスク。 ・ 住民ニーズの多様化。 ・ 地域活動の担い手の高齢化。 ・ 住民同士のコミュニケーションの希薄化。 ・ 県・広域圏での人材交流。 ・ 事務、施設など広域化の検討。
現総計	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメントサイクルを徹底した行政経営の実現（基本要件 2） ・ 持続可能な財政基盤の確立（基本要件 3）
社会動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歳入の減少と歳出の増加。 ・ 職員減、歳入減の中での行政機能堅持の必要。 ・ 老朽化したインフラ・公共施設の増加に、維持管理・更新の費用・体制の確保が追いつかない。 ・ 行政の役割は「サービス提供者」から「協働のプラットフォーム支援」へ。 ・ テクノロジーの活用による、効果的・効率的な行政経営への転換。

◆資料編

1. 町民ワーキングの開催スケジュールと検討内容
2. 町民ワーキング委員名簿
3. わたしたちが取り組んでいくこと [町民ワーキング委員会の主な意見]
…めざす姿の実現に向けた住民、協働の取り組み

わたしたちが取り組んでいくこと [町民ワーキング委員会の主な意見]

第1回から第4回の町民ワーキングの意見から、めざす姿の実現に向けた住民の取り組み、協働の取り組みを分野別に「わたしたちが取り組んでいくこと」としてとりまとめました。これらのご意見は、基本計画の分野別の「めざす姿」「方針」等の策定に活用します。

保健・医療

- 健康な100歳を目指します。
- 介護を受ける側にならないよう努めます。
- 子どもたちと一緒に、朝のラジオ体操をします。
- 散歩コースを作ります。

産業振興

- 新しいことを始めたい、チャレンジしたい人が、何をしたいか報告する場を作り、起業者を支援します。
- 町や商工会のホームページで求人やボランティア、地域活動等の募集情報を公開します。
- 空き家を活用して、商店街の活性化に貢献します。
- 町内の高校生が町内でアルバイトすることで、町内で働くことへつなげていきます。
- 憧れの的になるような第一次産業者を目指します。

環境保全

- 一人ひとりの環境意識を高めます。
- 家庭・学校で子どもの環境学習を進めます。
- ごみのポイ捨てを絶対に許しません。
- ごみの分別でゴミを減らします。
- 生ごみの水切りや堆肥化で生ごみを減らします。
- レジ袋ゼロを目指します。
- 子どもと一緒に、青葉山に年1回以上登ります。
- 節電を心掛けるとともに、自然エネルギーの活用に取り組めます。
- 各家庭で薬草の苗を育てます。

福祉

- 高齢者が高齢者を支えるネットワークを作ります。
- 若い時から介護について学ぶようにします。
- 声を掛け合い、「おたがいさま」の精神で助け合う関係を築きます。
- あいさつから始めて、顔見知りを増やします。
- 各地域で世代間交流の場を作ります。
- 移動式まちかどカフェや地域サロンのような交流の場、みんなで話し合う場を作ります。

観光振興

- 地域の人が地域の観光地や資源を知って、観光案内人になります。
- 観光情報を発信する「高浜アプリ」を作ります。
- 自然体験ができるプログラムを宿泊者に提供します。
- 旅館、民宿での地元食材利用を進めます。
- 稲刈り、田植え、漁業、炭焼き、たけのこ、干物作り等の専門家が、町民や子どもたちに体験を提供します。
- インパクトのあるおみやげを決定する、高浜M(みやげ)-1グランプリの開催を目指します。

教育・子育て

- 教育を応援するとともに、教育に関わります。
- 地域全体で子どもを育てます。
- 子育てで困った人がいれば、すぐに手助けします。
- 大人が運動を兼ねて公園を利用することで、子どもたちを見守ります。
- 小中高校生と一緒に活動、組織を作ります。
- 地区の祭りを通じて、子どもと大人が関わるようにします。
- 高校や大学の進学で町外に出ても、帰りたいと思えるまちにします。

防犯・防災

- 子どもも大人も気軽に声を掛け合い、隣近所で見守る関係を築きます。
- 災害時の避難場所を把握します。
- 多くの人に参加できるように、イベントと一緒に防災訓練を開催します。
- 地区、地域ごとに防災訓練や講習を行います。
- 雨水タンクを設置します。
- 家庭用蓄電池を取り入れます。

住環境整備

- 移住者を受け入れる環境を作ります。
- 空き家を活用します。
- 地域住民による自主運営交通バスを作ります。

住民自治

- 全員参加の高浜を目指します。
- 地域の一員であるという意識を持ち、一人ひとりができることを考え、実行します。
- 地域行事を伝承・継承します。
- 4地区でのお互いの交流を活性化します。
- 地域活動やボランティアへ若い世代の参加を促します。
- 子どもや女性、若い世代が参加したい、関心のある活動を考えます。

基本構想「将来像 まちやひとの姿」について

1. 記述項目について

- ・ 町民ワーキング、検討委員会での意見交換と事務局での協議等を踏まえて、次の構成での素案を調整することとします。

記述イメージ

2. 将来像

(1) まちやひとの姿

キャッチフレーズ

(趣旨)

- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……
- ・ ○○○○○○……

- ・ キャッチフレーズで表現しようとする「めざす姿」について説明
- ・ 基本計画で整理する「分野のまとめり」を考慮して、3～4ブロックで記述

2. 記述内容について

(1) 将来像に係る基本的なイメージ

- ・ 町民ワーキング、検討委員会では、「住みよい」「暮らしよい」といったことが、高浜町の魅力として語られました。
- ・ これらは、人間関係のあたたかさや安心感、豊かな自然環境が礎となっていること、さらに、今後もこの住みよさ、暮らしよさを継いでいくために、子ども・子育てを中心とした「人」、そして人や地域との「つながり」を大切にしていきたいという思いが共有されたところです。

【町民 W/検討委員の意見】

(美しい自然が保たれ、豊かな暮らしがある)

- ・ 海、山などの豊かな自然は自慢である
- ・ 豊かな自然を次世代にも残していきたい
- ・ 自然に包まれている、守られている
- ・ 自然と共存している
- ・ 豊かな自然があることは前提

(人間関係がよく、あたたかさ、安心感、居心地の良さがある)

- ・ 人とのつながりが豊か、多世代交流
- ・ 地域への愛着やつながりがあることで、まちに戻ってくる
- ・ 子どもが育ち、その子がまたここで子どもを産み育てる、子育ての循環
- ・ 人がやさしい、助け合い身近にある
- ・ 居心地のよいつながり

(「住みよい」「暮らしよい」「戻ってきたい」と思う人が多い、

これからもそう思えるまちでありあたい)

- ・ 帰るべき、戻るべきまち
- ・ 昔ながらの良さが残るまち(温故知新)
- ・ 住みやすく、これからもこのままであってほしい
- ・ いろいろな出会いがあるまち
- ・ 進学や就職等で離れても、いずれ戻ってきたいまち
- ・ 愛着をもっている

◆上記を踏まえた町民 W からの意見や追加の表現

- ・ 高浜町の基本的なイメージとしてはこれで集約できている
- ・ 人の暮らしの基本となることとして、これで良い
- ・ 自然とともに生きる、暮らすこと自体が、高浜町のライフスタイルであり、ブランド

(2) 将来像にのぞむ「まちや人の姿」として大切にしたいこと

- ・ 町民ワーキング(以下「町民 W」と言う)、検討委員会等で分野別に検討した「めざす姿」をもとに、それらを組み合わせながら、将来像にのぞむ「まちや人の姿」として4つのイメージをとりまとめ、第4回町民 W で意見交換をしました。

① 「子ども・子育て」「福祉」「保健・医療」「教育」分野

検討の素材	ポイント
<p><u>すべての子どもがその子らしく健やかに育っている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子育て、気軽に相談できる ・ ご近所の顔がつながる ・ 町内で出産でき、安心できる医療体制がある ・ 子育て世代の地域での交流 ・ 父親も子育てに今よりも参加している ・ 子どもが安心して遊べる・過ごせる 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが、生涯を通じて、「地域の人との関わり」を感じながら、安心して、心地よく、健やかに暮らしている
<p><u>誰もが、いくつになっても住み慣れた地域でともに支えあい暮らしている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひとりぼっちにならない、たとえ1人になっても安心のある町 ・ 年齢を重ねても、住みやすい町 ・ 声かけ合い、助け合い、「おたがいさま」の町 ・ 気軽に話しあいができる町 ・ 地域にまとまりがある町 ・ ボランティアが盛ん ・ 誰もが必要とされる ・ 「くるむ」を子ども子育てだけでなく、乳幼児期から高齢期までを含めて考えて、キャッチフレーズに用いてはどうか 	<p>② 上記イメージの端的な表現（語句例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して健やかに暮らす ・ 支えあいがある ・ ぬくもりがあり、心地よい、人のつながり ・ 互いに育ちあい、共に生きる <p>（単語例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くるむ／つつむ ・ つちかう／はぐくむ ・ つながる／まわる／めぐる ・ 居場所
<p><u>一人ひとりの健康づくりへの意識が高まり、健康寿命が延伸している</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康寿命の延伸 ・ 健康 100 歳 ・ いきいき ・ 地域医療、予防医療に力をいれる ・ みんな健康で介護の要らないまち 	
<p><u>子どもが高浜町で育ってよかったと思っている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの時からまちづくりに関わる ・ 地域を自慢できる ・ 進学等で町を離れても、戻ってきたい、戻ってくる 	
<p>◆上記を踏まえた町民 W からの意見や追加の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「支えあい」「たすけあい」の表現は福祉のイメージが強い ・ 「くるむ」は、この領域を包括できている（大きな輪のイメージ、出会い、つながりあい、育つイメージがもてる） ・ 子ども、親目線の表現として「夢を実現できる」といった趣旨を追加しては 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手を取りあう／元気であたたかい／声かけあい／おたがいさま ・ 誰もが必要とされる ・ 安心のあるまち ・ 暮らしやすい ・ 夢を実現する／その子らしく健やかに／地域で子育て

② 「住民自治・コミュニティ・地域活動」「協働・行政経営」分野

検討の素材	ポイント
<p>多くの人が地域活動に参画し、活発な交流がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の運営、体制、経済面での自立が必要 ・ 20～40代の若いリーダー、団体がでてくるとよい ・ 担い手がたくさんいる ・ 各地区で様々な取り組みが展開されている ・ 地区ごとの祭りによって、多世代交流がなされている ・ 各地区の取組がまち全体で共有されている 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが高浜町の一員として、自分らしく地域と関わり、持続可能なまちとなっている
<p>協働が進み、持続可能な行政経営が行われている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来世代へ財政負担を先送りしない ・ 少ない職員数での行政運営のリスク ・ 住民ニーズの多様化 ・ 地域活動の担い手の高齢化 ・ 住民同士のコミュニケーションの希薄化 ・ 県・広域圏での人材交流 ・ 事務、施設など広域化の検討 	<p>② 上記イメージの端的な表現 (語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> → 一人ひとりの関わりでよりよい未来へつなげる → みんなの力でつなぐ <p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 綾なす／編む／織りなす ・ 関わる／つなぐ／継承する／つらなる ・ むすぶ／結う ・ 絆
<p>◆上記を踏まえた町民Wからの意見や追加の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「つなぐ」「つながる」「絆」「継承」といった表現が考えられる ・ 流行ではあるが、「One Team リンチーム」は良い表現で、これを日本語で表せないか ・ 誰かがやってくれるという姿勢が多くあり、「みんなが“主役”」の意識が大事 ・ 「持続可能」は大切だが、どこか「現状維持、よりよくなる」という状態が見えない(夢がない) ・ 表現として、「未来、将来へつなげる」「あらゆる世代が元気で頑張る(若者少ない)」「ワガコト」といったこと内容はどうか ・ まち全体の『一体感』(all たかはまの力)として団結や統一感を表せるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが主役 ・ わがこと ・ あらゆる世代が役割を担う

③ 「生涯学習・文化・スポーツ」「農林水産業」「商工業・観光」分野

検討の素材	ポイント
<p><u>自ら学び、学んだことを活かしている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつになっても楽しく学べる ・ 住民が主体的に色々な活動をしている ・ みんなが地域を自慢できる ・ 年代に関係なく交流が盛ん ・ 伝統芸能が継承されている ・ 外国人にもやさしいまち 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを通じて、誰もが自分らしく活躍している ・ 地域資源を活かした産業によって、まちに活気がある
<p><u>若い力、新しい連携、発電所が立地する利点を活かして、地域産業が活性化している</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やる気がある人、若者のチャレンジを応援する ・ プロが集まり、異業種との連携、コラボ、マッチングによって、新しい産業が生まれる ・ 原子力に限らず、エネルギーのふるさと ・ 原子力発電に関する研究開発拠点のまち、日本（世界）最先端の電子力技術を持つまちにする 	<p>② 上記イメージの端的な表現 (語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びが生きる ・ 学びを活かせるまち → 地域と共に発展する → 活気ある →
<p><u>農林水産業の付加価値が高まり、地産地消も増えている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高浜と言えば「〇〇」があるといった、高浜ブランドがある ・ 地産地消のまち ・ 一次産業で暮らせるまち 	<p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろどる／華やか ・ にぎわう ・ かがやく／きらめく／ひらめく ・ はばたく／ひらく／躍進する／飛躍する／前進する
<p><u>自然環境、歴史、食など地域資源を活かして、1年を通じて高浜町に多くの人を訪れている</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を生かした観光 ・ 誰もが楽しめる ・ 年間を通じて、全国から人が集まる ・ 住民みんなでおもてなし、ホスピタリティ ・ 観光振興によって、地元に戻ってくる ・ ITを使った観光で活性化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活気／活力／魅力
<p>◆上記を踏まえた町民Wからの意見や追加の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品や観光地のブランド化、学びを通じて地域に誇りを持つことを踏まえ「誇り」はどうか → 「地域産業の活性化」や価値を共有する意味でも「あるものみがき」といった視点は大事 → 「わかさかいい」「わかさぐじ」といったように何事もこだわって良い → きれいな海はこれからも大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信／誇り／誇れる／あこがれ → 地域が活性化する → あるものをみがく →

④ 「環境」「住生活・都市基盤」「防災」分野

検討の素材	ポイント
<p>美しい自然が保たれ、豊かな暮らしがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海、山などの豊かな自然は自慢である ・ 自然に包まれている、守られている ・ 豊かな自然を次世代にも残していきたい ・ 自然と共存している ・ 豊かな自然があることは前提 <hr/> <p>良好な住環境があり、快適な暮らしが保たれている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい、統一感のある景観、町並 ・ 夜でも明るい、安全・安心なまち ・ 空き家がないまち ・ 住民が地元の歴史、文化、資源を知っているまち ・ 文化的なまち ・ 歩行者、自転車中心のまち ・ 公共交通が利用しやすいまち ・ 住民も観光客も移動しやすいまち <hr/> <p>自らできることに取り組み、地域の総力で災害に備えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣近所で見守る、たえず声掛け ・ 自助共助 ・ 防災のスペシャリスト、各地区に防災士がいる ・ 災害時の備蓄率 100% ・ 新住民、外国人も含めてみんなで危険箇所を共有 ・ 災害に強い地域づくり 	<p>① 検討の素材を包括するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然とともにある暮らしよさと自然災害へのしなやかな強さのある都市 <p>② 上記イメージの端的な表現 (語句例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然とともにある暮らし ・ 心地よさと安心がある ・ 自然災害へのしなやかな強さ ・ 自然とともに、しなやかに生きる <p>(単語例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然共生／環境共生 ・ レジリエンス／しなやか ・ 多様性 ・ 潤おう ・ 織りなす／寄り添う ・ 快適
<p>◆上記を踏まえた町民 W からの意見や追加の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高浜町らしさを「自然」で表現するとしたら、「海・山・砂浜」が考えられる。 ・ 暮らしの中での自然と関わりあいが減っているが、砂浜についてはその維持管理で今も多くの人に関わっており、高浜の暮らしのシンボル ・ 白く長い砂浜は高浜町全体にあり、自慢でき、大切な資源 ・ 「自然と人」「自然」を打ち出してはどうか。 ・ 高浜の暮らしは一つの「ライフスタイル」として誇れるもの ・ 「自然とともに生きる」は「暮らし方」よりも「価値のある表現」 ・ 災害が少なく安心 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然をつなげていく ・ 自然と人とは織りなす ・ 美しの浜と心 ・ 海と山（青葉山）

(3) 将来像を表すフレーズについて

【キャッチフレーズのポイント】

- ・ 高浜町のことだとわかる。共感できる。
 - ・ 言いやすい、覚えやすい、使いやすい。
 - ・ できれば比喩的な表現はさけた方がよい。
- (例)「織りなす」:「縦糸、横糸を組み合わせて生地をなす」の意であり、この言葉を用いる場合に、関連する比喩的表現を考慮する必要が生じる

(4つのイメージをくみあわせたフレーズ案)

案1

にぎわい うるおい ささえあい
誰もが主役 住み続けたいまち 高浜町

案2

支えあい、つながりあい
自然とともに暮らし 未来を拓くまち 高浜町

案3

自然にくるまれ つながる心
誰もが暮らしよい 若狭たかはま

(キャッチフレーズとしての性格を強調したフレーズ)

案4

くるむ つなぐ かがやく
～自然とともにある暮らし 若狭たかはま～

(現総合計画の将来像を継承したフレーズ)

案5

暮らしたい 働きたい 訪れたい
～みんなに選ばれるまち 高浜町～

- ・ 「将来像のフレーズが長く、覚えにくい」「一言で伝えられない」「自然は前提としてあるもの」といった意見をふまえて調整。
- ・ 「一人ひとりが主役になる」の表現は「協働・行政経営」の項(次節)でその考え方を整理。

(4) 参考資料

【現総合計画等に描かれている「将来像」「都市像」等】

計画名	将来像・都市像
現総合計画（第3次） （2011年～）	美しい自然を舞台に 一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町
第1次総計 （1990年～）	「まちの人達が創造的な活動を活発に展開しているまちであるとともに、 広く近畿の人々が交流する近畿のふるさとであるまち」
第2次総計 （2001年～）	「生きがいのある住みよいまち、魅力と活力のあるまち、心豊かで健康なま ち 海浜活生（いきいき）タウン たかはま」
都市計画 マスタープラン	「海辺の暮らしから“継（つなぐ）” ～ひと・暮らし・自然・産業が結び付 き 文化をつなぐ持続可能な風景都市～」
まち・ひと・しごと 創生総合戦略	「高浜に住もう 仲間のいる高浜に戻ろう！海のまち高浜で暮らそう！」

【県・近隣市町の将来像】

○福井県：基本理念 「希望ふくい」の創造（「福井県民の将来ビジョン」（H22年策定）

将来像（1）「緑を活かす」福井流生活の確立と継承

将来像（2）「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

○嶺南地域の自治体の将来像（基本理念等）

自治体	将来像（基本理念等）	概要（一部抜粋、要約）
敦賀市 （H23）	世界をつなぐ港まち みんなで拓く 交流拠点都市 敦賀	<ul style="list-style-type: none"> 交通の要衝といった立地特性を生かし、国内外の各地域をつなぐ交流拠点となることを目指す 自立的な「発展のサイクル」の形成を促し、以下のような敦賀を築きます <ol style="list-style-type: none"> ぬくもりと豊かさに満ちた住みよいまち 安心して働き、暮らすことができる活力にあふれるまち 新たな価値を生み出す創造的なまち
小浜市 （H23）	『「夢、無限大」 感動おばま』	<ul style="list-style-type: none"> 「夢、無限大」：「協働」のまちづくりによって、すべての人が限りなく大きな夢を描き、実現できるまちを表す 「感動」：地域資源を発見・認識による感動、市民・団体・事業者・行政が自ら「感じ」、自ら「動く」という自主・自立のまち、「チャレンジ精神」を持って施策を推進していく基本姿勢を表す
美浜町 （H28）	「みんなで創り、絆ぎ、 集う、美し美浜」	<ul style="list-style-type: none"> 創：活力ある「ひと」を育て、人材をつくり、地域をつくり、活気あふれるまちづくりを目指します。 絆：「ひと」がつながり、地域がつながることによって絆が深まり、地域の伝統・文化・自然を次の世代へとつなげるまちづくりを目指します。 集：様々な交流・体験を通じて、人々が出会い、交流が生まれ、輪を広げ、「ひと」が集えるにぎわいのあるまちづくりを目指します。

自治体	将来像（基本理念等）	概要（一部抜粋、要約）
<p>おおい町 (H29)</p>	<p>「輝く笑顔がうみだす希望 情熱よせ合うふるさと “おおい”～みらいへの贈物 魅力 創生をあなたとともに～」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本理念を踏まえ、3つの将来像を設定 (1)～協創・挑戦～ 輝く笑顔が支え合う 素敵なまちづくり (2)～発信・交流～ 磨こう地域の宝 つむいで響く賑いのまちづくり (3)～共感・躍動～ 人と自然がおりなす 夢つなぐまちづくり
<p>若狭町 (H30)</p>	<p>『新しい感動と 笑顔がひろがるまち』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者世代の移住、定住を促進し、地域で活躍することによって生まれてくるまちづくりや、交流の拡大による地域の活性化や新たな出会いは、「新しい感動」として広がっていきます。 ・ 人と人、人と自然などのつながりによって、これまで築いてきた住みやすいまちを、10年後、20年後も、私たちや私たちの子や孫の世代が大好きな「笑顔」が広がるふるさととして続いていくよう守り、育んでいきます。 ・ 大切なふるさとに住み続けていくため、活力あるまちづくりを進め、「新しい感動と笑顔がひろがるまち」を創造していきます。

横断的な行政担当者

大西さん(右)
産業振興課に所属。
観光振興を担当。

本郷さん(中)
教育委員会事務局に所属。
生涯スポーツを担当。

伊東さん(左)
産業振興課に所属。
食育・商工業を担当。



応援団

「子育て」
高浜町の

子育て世代包括支援センター kurumu



子育てや母子保健健康づくりなどを担当する保健福祉課メンバー。

子育て支援活動「kurumu (くるむ)」

高浜式の横断的な子育て支援活動は
全国で高い評価を得ています。

体験、子育て、サービスなどが融合する“kurumu 子育てサイクル”

高浜町は、3つの百選(棚田百選・快水浴場百選・夕陽百選)のある美しい海辺の町。そんな自然豊かな町の子育て支援活動の取り組みが、グッドデザイン賞や厚生労働省のアワードに選ばれました。そこで、高浜町の子育て活動をご紹介します。



受賞式(野瀬町長:下段右から2番目)

民宿での昼食の様子

**厚生労働省2019
健康寿命をのぼそう!
アワード受賞**

「民宿を活用した産後デイケアサービス」が、2019年度、厚生労働省のスマートライフ・プロジェクト【健康寿命をのぼそう!アワード】で、厚生労働大臣賞自治体部門優秀賞を受賞しました。民宿という地域資源に着目し、子育て支援とながった他市町でもおおいに活用できる好事例と高い評価をいただいています。

AWARD 健康寿命をのぼそう!
AWARD 健康寿命をのぼそう!
もっと幸せに子育てできるまちへ
民宿を活用した産後デイサービス

出産直後の母親は、ホルモンバランスの変化が大きく不安な状態で身体も弱っています。ただ、産後のケアは産婦人科など病院で実施していることが中心で、病院のない高浜では実施できません。また、病院では、「くつろげない」という母親の心境もありました。そこで注目したのが高浜町にいっぱいある「民宿」。入浴や食事もでき、くつろげる地域資源。この民宿に助産師さんなどがセットになった新たなサービスがあったらとスタートしたのが「民宿産後デイサービス」です。

里山里海で体験

若狭湾国定公園を有する高浜では、豊かな里山や里海を活用した体験会が0歳から保育所・小中学校など、さまざまな機会でも多く体験できます。例えば、家族での海水浴や青葉山登山、キャンプやバーベキューが身近に楽しめます。保育所では、わかめ干し体験などの食育活動、小学校では海や川の生き物観察会やビーチでのスポーツ大会などがいっぱいあります。

オリジナルの体操や
絵本も登場

子どもの頃からふるさとに親しんでもらえたらとオリジナル絵本『はらぺこシジミ』も登場。また高浜町のゆるキャラ「赤ふん坊や」をモチーフにした『赤ふん坊や体操』も、学校やイベントなどの健康づくりとして親しまれています。



海の体験活動



高浜町オリジナル体操『赤ふん坊や体操』



わくわく★ちびっこ食体験クラブ



若狭高浜はまなすマラソン



写真: 子育て世代包括支援センター kurumu
© photo by YOU (岡崎夕子)

審査員の評価

担当審査委員 服部 謙樹 近藤 ヒデノリ 平林 奈穂美 山出 淳也 山崎 亮

子育て世代包括支援センターとしてオープンされた、子育て横断型の仕組みが可視化されている。自治体の縦割りの垣根をはずし、子育てに邁進できる環境としてこのセンターの役割は地域にとっても大きい。人口1万人の町から、他地域のお手本として高浜式の子育ての形が広がっていく事を願う。



詳しくは WEBへ

高浜町の子育て支援活動「kurumu (くるむ)」が、2019年度のグッドデザイン賞「地域コミュニケーション部門」を受賞。kurumuは、子育て世代包括支援のあり方を提案し、「高浜でくるむ、高浜をくるむ」という横断的な仕組みが評価されました。

グッドデザイン賞受賞



"Takahama is a great place to raise children."

子育てするなら、高浜がいいよ。



横断的な全員参加の
子育て支援活動の提案

kurumuサイクルを全国へ

町民 観光客 応援団

地域の素材 (soil)

地域協働の
環境保全の活動
(ビーチマネジメント)

ビーチの国際環境認証
Blueflag (ブルーフラッグ)
since2016

日本最大級の民宿群、路地や砂浜など、
人と自然をつなぐ地域素材 (soil) の活用
(デザインコード・建材として取り入れ) で
生きる素地を蓄える

地域横断的な
仕組みが good



「子育てするなら、高浜がいいよ」子育てする世代が、今よりもっと幸せに子育てできる町になるため、地域のぬくもりに包まれた子どもたちが、次の誰かをあたたかく包む人に成長できるように、「地域の素材 (soil)」「家族の絆 (soul)」「地域とのつながり (society)」の3つをデザインし、持続可能な子育て環境を実現しました。

地域で包まれた子どもたちが
次の誰かをあたたかく包み
地域を「くるむ」人材の循環を育む

砂浜のゴミ拾い

小学生浜茶屋

誰もが海を楽しみたい

地域とのつながり (society)

わかめ干し体験 (食育)

赤ふん坊や体操

地域医療
健康のまちづくり



全員参加の
地域づくり

2018年、高浜町と福井大学、たかはま地域医療サポーターの会との協働の取り組みが、プラチナ大賞部門賞「全員参加の地域づくり賞」を受賞しました。

地域総動員の手づくりイベント
「和田 de 路地祭」や地域活動は、
地域とのつながり (society) 力を
育てる装置

高浜でくるむ、
高浜をくるむ。



子育て世代包括支援センター
「kurumu(くるむ)」

対話・成長・心を
デザインコンセプトに

STAFF

- 保健師
- 助産師
- 看護師
- 管理栄養士
- 保育士
- 家庭相談員
- 社会福祉士

子育て
団体

保育所

学校

児童
相談所

病院
診療所

切れ目のない支援
ネットワーク

町民
町外利用者
専門家

"Takahama is a great place to raise children."
Creating a happy and nurturing environment for raising children, to ensure that they may grow up and nurture the next generation with the same love and affection.
To ensure greater well-being for our future generations, we've created a sustainable child-rearing environment focused on the importance of family, community and local resources. (左記英訳)

地域資源を活かす
地域協業

妊娠期のファミリープランづくり、
民宿での産後ケアデイサービスは、
家庭での家族の絆 (soul)
を強める手助け

健康寿命を
のばそう!
AWARD



家族の絆
(soul)

左写真：民宿産後ケア
デイサービス

- ・助産師等子育て相談
- ・栄養を意識した料理
- ・大きなお風呂でリラックス



たかはま健康づくり10か条



高浜を題材に
子育てお母さんとUターンデザイナーの共作
オリジナル絵本『はらべこシジミ』

kurumu ギフト

町内事業者
町外事業者
デザイナー
アーティスト